

令和2年7月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	令和2年7月28日(火)		
2 開会及び閉会	開会	13時00分	
	閉会	16時37分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	石井希典	
	委員	妹尾直人	
	委員	片山美香	
	委員	河内智美	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	石井雅裕	教育次長	岡林敏隆
次長(教育総務部長兼務)	赤野政治	学校教育部長	奥橋健介
生涯学習部長	小坂正樹	教育企画総務課企画調整担当課長	植山智恵
就学課長	畑克己	指導課長	谷岡哲郎
指導課課長補佐	今野喜久恵	指導課課長補佐	林俊雄
指導課指導係長	村尾剛介	指導課指導主査	森祐子
指導課指導主査	井原進一郎	指導課指導副主査	小林朋史
指導課指導副主査	土井教司	指導課指導副主査	小坂建太
指導課指導副主査	佃知美	指導課指導副主査	赤柏陽子
指導課指導副主査	永守好宏	指導課指導副主査	仲宗根篤史
指導課指導副主査	坪井和美	保健体育課保健体育係長	長谷井利之
教育研究研修センター指導主査	松岡孝佳	教育研究研修センター指導副主査	藤田健児
教育研究研修センター指導副主査	金見春花	事務局(教育企画総務課課長補佐)	井本浩行
事務局(教育企画総務課副主査)	藤野彰		
5 議題及び結果			
第18号議案	令和3年度使用教科用図書の採択について		原案可決
第19号議案	岡山市就学援助規則の一部を改正する規則の制定について		原案可決

6 教育長等の報告 なし

7 議事の概要

教育長 全委員 教育長	○ ただいまから7月岡山市教育委員会定例会を開催する。 傍聴希望者の方は12人である。入室してもらってよろしいか。 ○ 〈承認〉 ○ まず初めに傍聴いただく方をお願いをする。本日は新型コロナウイルス感染症への対策として、ソーシャルディスタンスを確保し、密にならないよう傍聴人の数を制限している。ただし、例年どおりに傍聴者を確保したいと考え、この会場に移動した次第である。どうか理解をいただきたい。 携帯電話などの音が出るものは、音が出ない状態にさせていただき、傍聴席での写真等の撮影、録音は認めていないので、あらかじめ了承いただきたい。皆様の理解と協力をお願いします。
教育長 全委員 教育長	○ 日程第1、会期についてであるが、本日1日限りとしてよろしいか。 ○ 〈承認〉 ○ 日程第2、こちらに6月の定例会の議事録があるので、ご覧いただいて署名をお願いします。 それから、本日は非公開となるものがないので、議事に入る。 日程第3、第18号議案、指導課から説明をお願いします。
指導課課長補佐	○ 本議案は、岡山市立中学校、岡山後楽館中学校及び岡山後楽館高等学校、並びに小学校及び中学校の特別支援学級における令和3年度使用教科用図書を採択するものである。 初めに、中学校で使用する教科用図書の採択をお願いします。委員の皆様には、教科書見本を事前にお渡しさせていただき、本日まで独自に調査研究を進めてくださっている。教科書見本については、本日、同じものを机の上に並べさせていただいているので、審議の際に必要なに応じて参考にしていただければと思う。また、事前にお渡ししている教科書展示会でのアンケートについても参考にしていただければと考えている。 なお、種目ごとに採択する教科用図書と採択理由を決定していただくわけであるが、進め方については次のように考えている。 まず、事務局から種目ごとに選定資料について簡単に説明する。続いて、委員から教科書見本、または選定資料について質問や確認事項があれば、事務局が回答する。 3番目に、各委員から採択すべき教科用図書とその理由について発表していただく。意見が一致した場合は、採択理由について審議し、意見が一致しない場合は、どの教科用図書がよいか十分意見交換していただいた後、採決により決定する。教育長は採択した教科書と採択理由を確認する。採択理由については、3点程度にまとめたいと思う。 以上で中学校教科用図書についての説明を終わる。
教育長 指導課指導主査	○ それでは、種目ごとに進めていく。 まずは国語について審議をする。事務局から説明をお願いします。 ○ 国語について各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。書く活動では、目標を確認し、提示された問いを意識しながら、自ら考えて学習に取り組めるようになっている。また、聞く活動については、例えば「メモをとる」「自分の考えと比べる」「評価する」など、さまざまな聞き方を段階的に身に付けることができるような言語活動が設定されていることが挙げられた。 次に、三省堂である。「読み方を学ぼう」を設け、中学校で身に付けさせたい読み方、「読みの方略」を系統的に配置することで、さまざまな文章を正確に読み解き、深く読み味わう経験を段階的に積み上げていけるよう工夫されている

ことが挙げられた。

次に、教育出版である。「持続可能な未来を創るために」という単元では、第1学年のプロローグから第3学年のエピローグまで系統立てて掲載し、生徒にとって身近な話題から、地球の未来について考えるといった内容まで視点が広げられており、自らの生き方を振り返ったり、最適解を求めたりする活動ができるよう工夫されていることが挙げられた。

最後に、光村図書である。同じテーマの異なる文章を比較して、論理の妥当性を吟味したり、評価したりできる教材を用意することで、読み比べることや視点を変えて読むことの価値に気づき、複数の情報を関連付けて自分の考えをもったり、表現の工夫を捉えて評価したりする力が確実に身に付くよう工夫されていることが挙げられた。

教育長
全委員
教育長

○ 教科書の見本、また選定資料について、質問や確認事項はあるか。

○ 〈なし〉

○ それでは、採択すべき教科用図書とその理由について、各々検討した結果を案として発表していただきたいと思う。

石井委員

○ 光村図書を挙げさせていただきたいと思う。理由は、岡山市の子どもの課題、また、新しい学習指導要領のねらいを見たときに、一言で申し上げれば、それに適応してまとまりがいいと感じた。

具体的には、一つ目として、何ができるようになるかという点が明確でわかりやすい点を挙げさせていただきたいと思う。他の教科書も正確にそのことは捉えられてあるが、例えば精密的過ぎて、説明的でなかなか頭に入ってこないというような感じを受ける部分もあった。その点、光村図書は、全学年巻頭で思考の地図と呼ばれている思考のフレームワークが示されていて、わかりやすかった。それから、巻頭にそれが示されていることで、それぞれの題材に取り組む際に使いやすい点を挙げさせていただきたいと思う。

二つ目としては、論理的思考の捉え方についてであるが、各社それぞれ少しずつ異なって興味深い内容であったが、光村図書は仮説を立てるということを明確に挙げられている点を挙げさせていただきたいと思う。これは実社会で仕事を進めるに当たっても非常に重要な捉え方だと思っている、また、巻末でも論理的思考を鍛える内容が充実していると思っている。

以上2点で光村図書を挙げさせていただくが、個別の内容で見れば、東京書籍も論理的思考の部分では樹形図とか、座標軸法とかという、名前を付けて論理的思考について考えさせられる部分があり、社会に出てから学校で学んだことを生かすという観点でいえば、何のために働くのかというテーマで書かれた内容については、非常に直接的な内容であるが、実社会で働く人が読んでも改めて勉強になり、中学校の間にぜひ読んでいただきたい内容だなと思い、すばらしい内容だと思ったので、報告させていただく。

妹尾委員

○ 私は、三省堂と光村図書の2社の間で非常に迷った。それぞれ理由を説明した後最終的な結論を申し上げる。

まず三省堂は、各教材の後に掲載されている学びの道しるべというものが非常によいと思った。目標、内容を整理する、読みを深める、自分の考えを深めるというステップを順に踏んで示して整理されていて、やや図式的ではあるが、学習する生徒にとっては非常に学びやすいのかなと思った。

光村図書のほうは、三省堂のものに比べてやや膨らみがあるというか、あるいは発展的だというか、生徒自身に主体的に考えさせる内容のつくりになっているのかなと感じた。特によいと思ったことが、同じテーマの異なる文章を比較して生徒自身に主体的に考えさせるというところが非常によいと思った。

あと、石井委員の意見とも重なるが、非常に実用的、論理的な文章が多数掲載されていて、それをいかに読むのかというところがよかったと思う。私自身、社会に出てから割とロジカルな文章をきちんと書ける方って本当に少なく、キーワードだけ並んでいるが、その相互の論理関係だとかがはっきりしな

いということがあるので、このあたりが鍛えられていいのではないかなと思う。
個人的なことを申し上げると、私は光村図書を中学3年生のときに使っていて、そのときに掲載されていた魯迅の故郷という挿絵も本当にそのまま、当時の記憶がありありとよみがえってきて、非常に愛着もあるが、最終的には三省堂のほうがよいのではないかなと思った。他の科目とも共通するが、国語だとか社会だとか数学だとか理科だとか英語だとか、今のコロナの状況の中で、自学自習するという側面も非常に重要なのかなと思っていて、そういう意味で三省堂のほうがよりわかりやすいというところがあると思い、最終的には三省堂を推したいと思う。

片山委員

- 私も三省堂と光村図書の教科書を見せていただき、どちらも読む、聞く、書く、話す、の四つの力が全ての教材において十分身に付くようにつくっておられる教科書だと思った。それ以外の教科書ももちろん、東京書籍等もそうであるが、特に四つの力、子どもがやはり教科書を手にとって読んでみよう、見てみようという中で、どんなふうにコラムだとか、いろいろな書き方、書きぶりというものが興味、関心をもって主体的に取り組めるかなというように見たときに、やはりこの2社の教科書は子どもが取っつきやすい文言がいろいろ使われていて、そういうコーナーが設けられているなどと思った。

私もいずれもすごく悩んだが、光村図書のほうでは、特に読むことの教材に関して、パンフレットとか取扱説明書、新聞記事、ウェブサイトとかといったメディアの文書とか、そういった日常生活にちなんだ学習教材が含まれている。それから書くことに関しては、手紙や電子メール、案内文とか、そういった日常生活を意識した実用的な内容というものが盛り込まれている。やはり学びを学びのままに終わらせずに、いかに実生活に結び付けていくか、そこも一つの学習の動機付けにつながるのかなと思った。やはり子どもが主体的に学習に取り組むという視点から、私は光村図書のほうがやや子どもに取りつきやすい、自主学习につながりやすいという点がいいということで、こちらを推薦させていただきたいと思った。

河内委員

- 国語に限らず、全教科共通であるが、一番私が選ぶ視点としたのは、子どもたちの考えを育てていく、考える力を育てていく、それから、もう一つは、各教科の学び方というか、着目する視点とか、考え方とか、そういうものをきちんと押さえていける、そういうところを中心に見ていった。

私は、三省堂と光村図書と東京書籍の学び方を学ばせようとするいろいろな工夫というところがすばらしいなどと思って、かなり迷った。最終的に私は三省堂の教科書が非常によく考えてつくられているなどという感じがした。例えば読む学習において、内容を整理して読みを深めて、自分の考えを深めて学びを振り返っていくという、そういう学び方がどの単元にも構成されていて、見通しをもって子どもたちが主体的に学ぶことができるということと、それから学習を振り返って学びを定着させるような工夫、そういうことができるのではないかなと思う。

光村図書のほうも、その学び方というものが非常に濃く出ていたが、これはどちらがいいかわからないが、考え方とか好みとかあると思うが、気持ちとか心情とかというものを読み深めるというところを光村図書はすごく大事にされているなどと思う。

それから、三省堂のほうは、例えばこの教材を深く読む手がかりを整理する仕方というものを、例えば三角ロジックだとかというようなものを使って行動描写を読み取って、それから心情に迫っていくと、そういう学び方ができるのかなというところが大変いいなどという感じがした。

教育長

- 意見が割れたので、もう少し意見をお伺いしたいと思う。光村図書と三省堂とに分かれたが、大きな視点としては、岡山市の子どもの実態に合っているかどうかという点でいかがであるか。

石井委員

- そういった視点で捉え直したときに、話し合いや、あるいは複数の情報から

片山委員	<p>情報を抜き取って、自分で正しく整理して、それを構成し直して発信するという、そういう能力を問われているということだと思う。それは、一言でまとめていくと、論理的な思考の能力と発信の能力ということになっていくと思う。そのまとめ方については、それぞれ意見が違っていたから、変わらないことなのかもしれないが、この選定資料にもその論理的な統制については、光村図書のところで大きく評価をされているのかなと見受けていて、それも合わせて判断すべきと考えている。</p>
教育長 妹尾委員	<p>○ 私も光村図書を推薦させていただいたが、今おっしゃった岡山市の子どもの課題というところで、相手が伝えたい内容を正確に聞き取る力の獲得とかというようなところも書いてある。そのあたりでは、聞く力というところに着目したコーナーで、学習教材が随所に取り入れられているという点でも、四つの力、読む、聞く、書く、話すと、いずれにしてもそれぞれにフォーカスして、いろいろな楽しい学びの仕掛けがある。私としては、三省堂も迷ったが、光村図書が岡山市の子どもたちの主体的な学びにつながると感じた。</p>
河内委員	<p>○ それでは、妹尾委員、三省堂はどうであるか。</p> <p>○ 迷った末の選択であるが、今、石井委員、片山委員がおっしゃったそのロジカルな文章、あるいは対話という意味でいうと、やはりそこは一步光村図書のほうがまさっているのかなというのは先ほど申し上げたとおりである。やはり対話だとかロジカルな説得の方法だとかというのは、異なる考え方の主体同士が対話をすることによって初めて生まれる話であって、そういう同じテーマの異なる文章を比較して、考え方の違い、それぞれロジックがあるのだということをおぼろげにという意味では、光村図書がすぐれているのかなとは思っているので、意見を変えることもやぶさかではない。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>○ 私もどちらも本当に素晴らしいなと思っているので、大きな差というのではないと思う。三省堂のほうが学び方をより学べるような仕組みが具体的に示されている。それから、光村図書のほうは、心情を捉えていくような、そこに力を入れておられる。だから、学習をつくり上げていく教師がそこをうまく指導法を工夫してやっていったら、どちらも深い学びができるのかなというような気がしている。大差はないが、その手法が違うので、先ほど申し上げたように、はっきりと学び方が明らかになっているところで、子どもたちに力を付けていけるというところが強かったので、三省堂のほうを推させていただいた。</p>
教育長	<p>○ 他に何か付け加えてということはないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p>
指導課課長補佐	<p>○ それでは、出尽くしたようであるので、採決をとりたいと思うが、お手を挙げていただけたらと思う。光村図書か三省堂かということで、光村図書のほうがいいという方、手を挙げていただきたい。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>○ 三省堂が一人ということで、では、光村図書に決めていきたいと思う。それでは、事務局のほうで選定理由についてまとめていただきたい。</p> <p>○ 3点にまとめさせていただく。1点目は、生徒に主体的に考えさせることができるという点。 2点目は、論理的思考を鍛えたりするという点で、何ができるようになるかが明確だという点。 3点目は、学びを日常生活につなげること、また、実生活を意識したという点を挙げたいと思うが、いかがであるか。</p>
指導課指導副主査	<p>○ よろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ それでは、国語は光村図書ということで決定する。次に、書写についての審議を行う。事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>○ 書写について各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。書写が学校生活の中で役立つ場面が例示されていたり、書写活用ブックに書写と実生活等とのかかわりが取り上げられていたりす</p>

ることが挙げられた。

続いて、三省堂である。学習したポイントを他の文字の場合、どこに注意すればよいかを自ら考え、話し合いを進められるよう工夫されていることが挙げられた。

続いて、教育出版である。写真による例示が豊富で、学習内容のイメージを捉えさせやすくするよう工夫されていることが挙げられた。

最後に、光村図書である。「やってみよう」のコーナーでは、文字を書く速さを変えたり、タイトルをデザインしたりする活動が取り上げられ、生徒自らが考えて取り組むことができるよう工夫されていることが挙げられた。

以上である。

教育長
全委員
教育長

○ 書写についての説明で何か質問や確認したいところはないか。

○ 〈なし〉

○ それでは、採択すべき図書とその理由について検討した結果を案として発表いただけたらと思う。

妹尾委員

○ 私は、三省堂がよいのではないかと思った。書き方を学ぼうというところでは、学習のポイントがわかりやすく整理されているなどと思った。

教材のつくりとして、基礎から段階を踏んで学習していくことが可能な、各社、皆さんうまくつくっておられるが、三省堂はそこがすぐれているのではないかと思った。

他社では、光村図書は、書写ブックが別冊になっているので、使いやすいかなとは思った。これは付加的な点であるが、私としては三省堂を推すということである。

片山委員

○ 私も4社、どちらの教科書を見せていただいても、書くということがどうしても日常生活で、大人がまずは少なくなっている中で、その書くことの大切さとか、書くことの楽しさということ、子どもたちがなかなか感じにくかったりするのかなと思い、文字を書くということに興味関心がもてるような、いろいろな素材を提示してくださっていて、こんなふうにしてもらったら興味をもてるのだろうかということ、すごく感心しながらいずれの教科書も拝見した。

その中で、文字を使ってどんな楽しみがあるのか、その文字を書くということにもっともっと動機をもつということについて考えてみた。やはり岡山の子どもの課題にも、学習したことを目的に応じて日常生活に生かすことに課題がある。特に三省堂の中に、グループ新聞とか情報誌、名言集の作成等の課題という中で、書写の教科を超えた合科的な、何かグループで楽しみながら文字を使って作品をつくるというところがある。書き方を超えて、書くことを通して何か次の体験を共同的にできるなというところで、文字を媒体にして書き方というところから、書写から超えたさらに学びの広がりという意味で、非常におもしろい。他のところでも、いろいろ教科書の中で工夫されているところもたくさんお見受けしたが、私は非常に先ほどの共同で何かをつくり出すというところで、三省堂の教科書に関心をもった。

河内委員

○ 私は、三省堂と東京書籍の教科書で迷った。いずれもやはり、先ほど申した、課題を解決するような、学び方を学ぶ一連の考えが貫かれた教科書だなど思っている。迷って、三省堂かなと思ったが、書写というものを単なる技能の習得というのではなくて、基礎的な知識とかをきちんと理解させて、そしてさらに筆遣いをわかりやすく確認させた上で実際に書いて、そして振り返るといふ、確かな学びの書写となるような展開になっているなどと思った。東京書籍の教科書、他の教科も同じように、共通した学びの過程が貫かれていて、他の教科書を読んでいくうちに、そのことに気が付いて、もう一度書写の教科書を読み直してみた。そうすると、やはり同じような一連のこの学び方を学ぶというところがあって、「見つけよう」で問いかけて、キーポイントを見つけたから確かめよう、生かそう、振り返って生かそうとか、生活に広げようとか、そういう流れがいいなというようには思った。ただ、その学び方がきちんとクリアなのは

<p>石井委員</p>	<p>三省堂のほうかなと思った。</p> <p>○ 光村図書を挙げさせていただきたいと思う。大人になって実社会に出て行って、字を書くことというのは本当にどんどん時代とともに減っていつている中で、実社会との関連性というものをきちんと示す必要があるのではないかと、いうところが一番の観点である。光村図書の中には、例えばQRコードで読み取って、県別にどういう字体がどういうところで使われているかということが出てきたりする。例えば岡山県だと、後樂園にある後樂園の文字がどういう字体なのか、岡山県庁の文字がどういう字体なのかということが出ていて、やはり実社会と書体とか書が何か関連しているのだなということを感じられる点をまず挙げさせていただきたい。それから光村図書の中ではデザインという言葉が出てきて、書写というものをデザインとして捉え直そうという試みと、それから書写を通してデザインに発展させていこうという考え方が書写の範囲を超えて出てきている。デザインの重要性というのは、実社会でもかなり高まってきているので、そういったところに生徒たちが興味をもって取り組んでいただきたいという意味も含めて、光村図書にさせていただきたいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 3対1ではあるが、意見が割れたので、何か他に付け加える意見があれば、お願いしたいと思う。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ 先ほど言わなかったが、石井委員がおっしゃった文字のデザインとか、ユニバーサルデザインとか、あれにはすごく関心があって興味を引かれた。それはいいなと思った。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 他にはないか。よろしいか。</p>
<p>全委員</p>	<p>○ 〈なし〉</p>
<p>教育長</p>	<p>○ では、採決をとろうと思う。三省堂か光村図書かということで、それでは、三省堂がいいと言われる方は挙手をお願いします。</p>
<p>指導課課長補佐</p>	<p>○ それでは、書写は三省堂ということで決まった。採択理由について事務局でまとめていただきたい。</p> <p>○ 1点目であるが、学習のポイントが整理されていてわかりやすい点というところ。</p> <p>2点目、書くことを通し、書くことの大切さや楽しさ、興味関心をもてるという点。</p> <p>3点目、技能の習得にとどまらず、基礎をしっかりと学んだ上で実際に書いて振り返ることができるという点でお願いしたいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ では、以上で書写を終わる。</p> <p>続いては地理である。地理についての説明を事務局からお願いします。</p>
<p>教育研究研修センター 指導副主査</p>	<p>○ 地理について、各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。情報を集めたり、読み取ったり、まとめたりするといった地理の学習を進めるうえでの基礎的、基本的な技能を身に付けることができるコーナーとして、「スキル・アップ」が32箇所記載されていることが挙げられた。</p> <p>次に、教育出版である。地理にアプローチでは、小学校で学習した地図の決まりや地図帳の使い方、人口ピラミッドなどを振り返る活動を取り上げており、中学校の地理の学習のスタートを効果的に進められるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、帝国書院である。地理的な見方・考え方が端的に説明され、章末、節末の「章（節）の学習を振り返ろう」では、見方・考え方を意識して学んだことを振り返ることで自分の考えをもち、表現することができるようになっていくことが挙げられた。</p> <p>最後に、日本文教出版である。学習内容の理解を深めるため、地理的な見方・考え方を働かせる問いを「深めよう」コーナーとして設け、習得した知識を活用させることで思考力、判断力、表現力等の向上を図ることができるよう工夫されていることが挙げられた。</p>

<p>教育長 片山委員</p>	<p>以上である。</p> <p>○ 各委員のほうから案を発表いただけたらと思う。</p> <p>○ 私は、地理というと、やはりいろいろなところに関心をもつという意味で、ただ、またここもそうであるが、学習のための学習にならないように、実生活といかにつないでいくかということところで、最近のトピックといえばSDGsというのは大事な視点かなと思った。</p> <p>教育出版と帝国書院、いずれも巻頭のほうでSDGsに触れられていて、各国のそれぞれの取組というものが、写真で子どもたちに興味が湧くように示されていて、非常に興味深いし、子どもたちが目の前に触れる写真で、具体的にイメージできるような主題が設定されていて、とてもいろいろな地域に興味をもてるような工夫をしてくださっているなどと思った。</p> <p>もちろんその他の教科書会社もそうである。提示された資料の中から、いかに今度は自分で内容を深めていくかということところで、日本文教出版では、深めようとか、確認のコーナーというものが設けられている。教育出版では学びリンクのコーナーということところで、東京書籍では考える、チェック、トライということところで、やはり地理というものをしっかりと自分の中で何回も繰り返して確認しながら知識を広げていく、興味関心を広げながら知識を深めていくということところで、それらの自主学習のコーナーが非常に興味深いなどと思った。</p> <p>それで、非常に迷ったが、今度はいかに写真等が効果的に提示されているか。やはりいろいろな地域というのは全て行ってみることはできない。特にコロナ禍でなかなか行きづらいところで、多分インターネットからの情報等もあるが、さまざまなカットで写真とか図表が載せられているという点で、私は帝国書院の教科書が最もいいのではないかなと思った。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ やはりSDGsの視点から、各社教科書を考えられていて、環境エネルギーとか、人権平和、伝統文化、防災安全、情報技術というような、そういう窓口をつくって、そこから情報を読み取って、情報を集めるという力を身に付けさせるためのコメントが随所に表記されているという点では、東京書籍がすぐれているなどと思った。</p> <p>帝国書院も、地理的な見方・考え方を育てる構成ということが配慮されていて、問いや課題、学習課題から確認しようとか、説明しようとか、学習を振り返ろうということを通して、その見方・考え方が確かなものになるように工夫されている。先ほど片山委員がおっしゃったように、写真がすごく魅力的でインパクトがあって、何か見ていると楽しい。学習しているというのでなくて、わくわく感が出てくるような。本当にどちらになってもすばらしいが、最終的に私もやはり帝国書院がいいと思った。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 帝国書院を挙げさせていただきたいと思う。二人の委員もおっしゃったけれども、巻頭でSDGsの考え方、課題が示されて、その上でさらに途中で未来に向けてというコラムがたくさん出てきて、その中で持続可能な社会をつくるための取組が数多く紹介されている。それから、実社会の人々の具体的な活動というのも紹介するコラムもあって、現代の課題に向き合って社会に出てから学校で学んだことを生かそうという視点が明確なのかなと考えている。</p> <p>それに加えて、技能を磨くというコラムもあって、その中では、主体的で深い学びにつながるような、地理的な考え方について興味をもって進められるような内容が広げられているということも挙げさせていただきたいと思う。強いて言えば、情報量が多過ぎるという点については、東京書籍とか日本文教出版は、教科書の文字数が少ないとか、きれいに整っているという意味で見やすいなというように感じた。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>○ 私も皆さんと同じで帝国書院を推したいと思う。私自身が学生だった頃を振り返ると、地理は一番苦手で、とにかく暗記科目というイメージである。ところが、割と実社会に出て大人になってみたら、本当は地理は重要というか、興味をもつようになって、その違いは何だろうということ考えていくと、先</p>

ほど石井委員がおっしゃったように、やはり実社会とのつながりということを中心的に自分のこととして考えるという、そういう工夫が必要になるのだろうと思った。その意味で多分、帝国書院でもさまざまな工夫がされているのではないかなと思った。

もう一点は、地理的な見方・考え方について、暗記科目というのではなく、その考え方というものを学べる構成になっている。地理的分野の学習の全体像を見通そうとか、そういった学習の仕方に関してまとめられていることがよいかなと思った。

あと、節ごとに学習を振り返って、学んだことを確かめようという、その知識を確認する部分と、それと地理的な見方・考え方を働かせて説明しようという思考力、判断力、表現力を鍛えるものがステップに分けられているというのもよいかなと思った。これは全く石井委員と同じ感想であるが、やや煩雑している感じがあるのだが、最終的には帝国書院が一番よいのではないかなと思った。

教育長
全委員
教育長

- 何か他に付け加えはないか。よろしいか。
- 〈なし〉
- 意見が一致したので、帝国書院のものを採択することに決定したいと思う。採択理由について、事務局でまとめていただきたい。

指導課課長補佐

- 1点目、魅力的でインパクトのある写真や図表が効果的に使われている点。
- 2点目、現代社会の課題が示され、実社会へつなげている点。
- 3点目、主体的に自分のこととして考えられ、地理的な見方・考え方を働かせて学べるようになってきている点というところをお願いしたいと思う。

教育長

- それでは、地理は帝国書院ということをお願いする。
- 次は、社会、歴史的分野の教科書に移りたいと思う。それでは、説明をお願いする。

教育研究研修センター
指導主査

- 歴史について、各社の特徴を説明する。
- まず、東京書籍である。「まとめの活動」では、思考を整理する多様なツールを提示することで、主体的に思考・判断した内容を適切に表現する力が身に付くよう工夫がなされていることが挙げられた。

次に、教育出版である。「歴史の技」や「読み解こう」では、資料活用の方法や手順を示したり、資料を読み解く視点を問いの形で示したりすることで、歴史学習に必要な基礎的な技能や表現力の育成ができるように工夫されていることが挙げられた。

次に、帝国書院である。「タイムトラベル」では、前の時代と比較することができるイラストと、それを見る視点が示されており、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色をつかむことができるように工夫されていることが挙げられた。

次に、山川出版社である。写真、風刺画、グラフや表にそれぞれ発問を付し、それについて考えたり、グループで意見を交換したりすることで思考力を育成できるように工夫されていることが挙げられた。

次に、日本文教出版である。課題例では、示されたテーマに沿って歴史を振り返り考察できるよう、「ステップ」で課題解決のための手順を示したり、関連する資料を掲載したりすることで探究的な活動につながる工夫がされていることが挙げられた。

次に、育鵬社である。「地域の歴史を調べてみよう」では、キャラクターの会話を生かしながら、地域についての興味を高め、生徒が自分の生活と自国の歴史との密接なつながりに気付いていくことができるように工夫されていることが挙げられた。

最後に、学び舎である。「歴史を体験する」では、インターネットを使った調べ学習や討論など、さまざまな学習の仕方について紹介することで、生徒の学習意欲を喚起できるようになっていることが挙げられた。

以上である。

<p>教育長 全委員 河内委員</p>	<p>○ 何か質問とか、確認したいこと等はないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ 歴史、公民に対する一般の方の考えについて、たくさんのアンケートが出されているなどということで、やはり関心が高いということに改めて感じた。</p> <p>そしてまた、相対するようないろいろな考えがある中で、本当に歴史の教科書というのはどういうものかいいのかなということに改めて深く考えながら選ばせていただいた。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 帝国書院を挙げさせていただきたいと思う。歴史を学ぶ目的とか意義というのは、各教科書の巻頭でそれぞれ書かれているが、その後の意味とか目的とその学んでいく内容とのひも付けがなかなかとりづらく、昔の時代と今を、どうやって自分で整理して結び付けていくのがなかなか難しいという中で、かなり画期的な取組だと思うが、帝国書院の中では未来志向で歴史を学ぼうという視点が最大の特徴なのかなと思っている。歴史の教科書でも未来に向けてということで、SDGsに関連させてコラムをたくさん設けていらっしゃるって、歴史の出来事を環境、交流、人権、平和という整理のもとで、現代にひも付けて考えるきっかけを与えているという点を挙げたいと思う。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>○ 私は少し迷って、東京書籍と帝国書院、どちらもいいなと思った。それぞれ理由を申し上げると、東京書籍のほうは、各章ごとのまとめが充実していて、先ほど河内委員からも指摘があったように、まとめ、基本、基礎のまとめとまとめの活動がステップに分けられているわけであるが、そこでツールが示されたりするところがよいなと思った。自主的に学習する際にも指針になってくると思った。</p> <p>帝国書院のほうは、主体的な学びということの一つの補助になるのではないかなと思った。多面的、多角的に考えてみようというコーナーで、私が非常におもしろいなと思ったのは、赤穂浪士の処分をどうするのかということと、当時、どういう処分がいいのかということ、幕府を含めていろいろな学者の意見を聞いたりして、そこで決めていったんだ、みたいな話があって、そういう非常に興味深いコーナーもあったりして、おもしろいなと思った。</p>
<p>片山委員</p>	<p>○ 私には東京書籍と日本文芸出版とで非常に迷った。まず、日本文芸出版については、いわゆる歴史を学ぶということに関して、岡山の子供は歴史を身近に感じて学ぶことのおもしろさを実感し、歴史を学ぶ意義を理解しながら学習に取り組むことに課題があるということが挙げられている。そんな中で、その日本文芸出版の教科書では、学習課題に則した見方・考え方ということで、推移とか、比較とか、そういうキーワードでそれを、その課題をどんなふうに見たらいいかということが示されていて、これが私にとってもとても興味深いというか、歴史ってこんなふうな見方もできるんだということに、非常におもしろく拝見した。それから、地域調べとか、歴史を掘り下げるということでは、どんどんそれをもとにまた自ら学習を深めていくようなきっかけづくりもすごく興味深くなさっているなと感じた。</p>

一方、東京書籍であるが、先ほどの自分が歴史のおもしろさを実感して学ぶというところで、河内委員もおっしゃったかと思うが、学習のそのスタイルというのは同じパターンでいつも繰り返されていると思う。最初に導入の活動があって、そこでまず歴史を身近に感じて興味関心を持ち、その後、探究課題を参考にしながら調べたり、考えたり、話し合ったりというところで、その話し合ったりという活動が非常に多く取り入れられている。歴史について話し合うということが非常に今、協働的な学習というものが重要視されている中で、過去を語りながら未来志向という中での話し合う活動も、いわゆる一緒に学ぶ、集団での学びという意味での楽しい学びの仕掛けだなと思った。

やはり子どもたちが教科書を読んで自己学習を深めるということの視点も考えると、日本文教出版の教科書、また帝国書院の教科書にもあるが、今の学んでいる時代が、全体的な現代までの中のどの入り口かというところで、年表が付されているが、各ページに同じ年表が付されているものが、幅をとるといふか、毎回それが同じように出てくるので、それ以外の情報というものがどうしても少なくなりがちなのかなというところで、迷った末に、自己学習をしっかりすることも視点の一つに入れると、東京書籍がいいのかなと思った。

教育長

○ 二つに割れてしまったが、東京書籍か帝国書院かということで、もう少し何か付け加えてお話になりたいことがあればと思うがいかがであるか。

石井委員

○ 東京書籍の話、今、お伺いして、なるほどそうだなという部分もあった。やはり全体の構成力というところで見ると、他の科目も共通しているところがかなりあるが、東京書籍の構成力というのは、やはり見やすいし、頭に入ってくるというところと、おっしゃられたとおりの、考え方が明確に示されているという点については、確かにそのとおりの部分もあるし、あとはグラフを使って数字で歴史を捉えようという見方もかなりされていて、そういう視点というのはかなりすばらしいと感じた部分もあった。なので、東京書籍もいいかなと思う。

妹尾委員

○ 私も本当に迷った上でのことなので、東京書籍も十分いいと思う。

教育長

○ 岡山市の子どもの課題の中で、歴史を身近に感じて学ぶ、そういうおもしろさを実感すること、そういうことで学習に取り組むという課題があるということなので、どちらも身近に感じる工夫はされているので、なかなか甲乙付け難いところもあると思う。

それでは、手を挙げていただけたらと思う。東京書籍か帝国書院かということで、東京書籍がいいなという方、挙手をお願いします。

帝国書院は1名。それでは、東京書籍ということで決めていきたいと思う。

指導課課長補佐

○ まず1点目であるが、学習スタイルが統一されており、自己学習につながっているという点。

学んだことを生き方に生かすということで、過去を語りながら歴史を学んで未来へ生かしていくことができるといった点。

そして、思考を整理し、ツールを提示しながら学びに生かしていけるといったあたりで3点にさせていただきたいと思う。

教育長

○ それでは、歴史は東京書籍ということに決めたいと思う。

次は、社会、公民的分野である。説明をお願いします。

指導課指導係長

○ 社会、公民的分野について各社の特徴を説明する。

まず、東京書籍である。随所にあるインタビューコラムには、社会に参画している人々の姿が描かれ、自らの生き方やキャリア形成について考えられるよう工夫されており、また、「もっと公民」のページでは、現代的な諸課題を意識しながら学習が進められる内容となっていることが挙げられる。

次に、教育出版である。各章の「学習のはじめに」や、章末の「学習のまとめと表現」では、資料をもとに考えたり、話し合ったりすることができるようになっており、言語活動の充実や資料をもとにした情報活用能力の育成に配慮した内容となっていることが挙げられる。

次に、帝国書院である。各見開きの左上に1時間ごとの導入となる資料が設けられており、ワイドな写真から学習内容をイメージしたり、学習内容を直観的に理解できるイラストから生活とのかかわりを具体的にイメージしたりすることで学習意欲を引き出すように工夫されていることが挙げられた。

次に、日本文教出版である。日本の伝統文化の特徴や多様性ととともに、グローバル化の中で世界に広がる日本の文化に触れ、我が国の伝統文化について理解を深めるよう配慮されていることが挙げられた。

次に、自由社である。「もっと知りたい」では、「地方自治と防災」、「年金について考えてみよう」など、実生活に深くかかわる課題を取り上げ、探究的な学習に向かう工夫がされていることが挙げられた。

最後に、育鵬社である。章の最後にある「学習のまとめ」では、重要語句の確認や図やグラフを扱った設問に取り組むことで学習内容の定着を図ることができるようになってきていることが挙げられた。

以上である。

- 何か事務局に質問とか確認をしておきたいことはないか。
- 〈なし〉
- それでは、各委員のご自身の案をお願いします。
- ちょっとまだ決め切れてないので、皆さんの意見も伺いながら決めさせていただきたいと思うが、まず、私のほうとしては、帝国書院と東京書籍を挙げさせていただきたいと思う。

帝国書院は、先ほどから申し上げているように、他の科目も一緒に、未来に向けてということで、持続可能な社会について参考になる取組が紹介されていたり、実社会の人々の活動が紹介されていたりして、社会に出てから学校で学んだことを生かそうという視点がしっかりと通っているのかなと考えている。

2点目は、本質に迫って考える力を身に付けさせようという姿勢が明確のかなと思っている。例えば経済分野では、無人島に漂着したらという設定でグループワークをするということで、究極の状態とか、極端な状態を考えることで、本質に迫るというようなすばらしい内容の設定なのではないかなと思う。あとは経済で重要な選択については、アリとキリギリスという点から迫って、やはりこれも本質に迫るような考えができるようになってきている点。それから、生涯賃金とか投資など、お金に関するライフプランを考えさせる特設ページがあるという点で、変化の激しい時代に自分で考えて行動できる力を身に付けられるような視点を強く感じた。

一方で東京書籍は、同じ経済分野のところで見ると、最も基本で重要な需要と供給について、かなり丁寧に学習できるようになっていて、それから他の科目でも共通であるが、それぞれの単元の課題とか振り返りとか、発展的学習がきれいに回るような仕組みが整っている点で、しっかり基本が身に付くのかなと感じている。

それから、東京書籍も実社会に関連するコラムとか、そういう設定がたくさん多く出ている点を挙げさせていただきたいと思う。

- 私は、帝国書院を推したいと思う。職業柄、切り口が偏っているかもしれないが、どうしても憲法のところをどう書かれているのかということが気になって拝見をした。実は社会的分野のほうでいわゆる歴史認識だとか、いろいろな教科書があるのかなと思いきや、割と皆さん同じような感じだったが、公民的分野は本当にバラエティーに富んでいておもしろいなと思ったが、帝国書院の憲法に関する記述というのは、ずば抜けてよかった。本当に誰が一体書いているのだろうというぐらい正確で、かつわかりやすく書かれていてよいなと思った。我々法律家が一番最初に大学に入ってショックを受けることが、憲法を学んで、憲法ってそういうことだったのね、ということ初めてそこで理解する。実を言うと、だから中学校の内容ってちょっと違うというか、もっとちゃんと教えないといけないのかなとは思ったりするのだが、そこが本当に正確でわか

教育長
全委員
教育長
石井委員

妹尾委員

<p>片山委員</p>	<p>りやすく書かれていて感心をした。</p> <p>余り細かい話をし出すととまらないのでやめておくが、なぜ憲法が必要で、現代の自由主義社会が成り立っているのかということを中心に論証されていて感心した。</p> <p>○ 私も東京書籍と帝国書院で迷った。いずれも小学校との学習の連続性というものが明確になされていて、その小学校で学んだことが、今度は中学校ではどのように現代の見方につながっていくのかという、その辺のつながりを意識しながら導入がなされているところが非常にわかりやすいし、興味をそそられるのかなと思った。</p> <p>その両者で比較したときに、現代を学ぶという中から、今の社会の仕組みを知る中で、やはり子どもが、自分はこの社会の中でどんな生き方をしていくのかとか、何に関心があるのかとか、そういった自分の興味関心を社会の中にかにもつかという視点で、インタビューコラムというところでは、自分の興味関心、なかなか知り得ない、いろいろな職業の方であるとか、どんな生き方をしておられるのか、そんなところでまで子どもの興味を広げながら、今の現代を考えていくという視点が盛り込まれているのではないかなと思って、悩んだのであるが、私は東京書籍を推したいと思う。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ 私も東京書籍と帝国書院で迷った。両者に共通していることは、学習課題を押し付けるのではなく、生徒自らが課題としてつくり出していけるような問いとか、活動とかがあって、それから課題をつくり出していく。そして、このことを学んでみようというような、そういうつくりを大切にされているところが非常にいいなと思った。</p> <p>帝国書院は、この公民のほうも写真や絵などの配列がすごくインパクトがあって、生徒の意欲が高まるなという思いがしたが、東京書籍の情報収集能力を付けるという点、情報を集めて整理して読み取る力を付けるということ、これを2年間ずっとやっていくと、社会の力というものがすごく身に付くのではないかなという点で最終的に東京書籍を選ばせていただいた。</p>
<p>教育長 石井委員</p>	<p>○ 石井委員、もう一度、どちらを選ぶかを伺ってよいか。</p> <p>○ やはり東京書籍については、お二方もおっしゃった点については、私も同意するところが多くて賛成であるが、そういう意味では東京書籍というのはしっかりまとまっていて、基本が身に付くのかなという思いを改めて強くした。同時に、私は経済分野で見たが、憲法の分野でも、やはりそれだけ帝国書院は本質に迫っているな、という感じを受けたのと同じことを、妹尾委員は憲法の分野で感じられたのではないかなという部分も感じて、若干、難しさは帝国書院はあるのかなという、基本的な部分をつくっていくという部分では、東京書籍の手堅さというのは感じた。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>○ 今、石井委員がおっしゃったことが本質だと思うが、手堅いという意味では東京書籍なのだと思う。ただ、さっきも触れたが帝国書院は、憲法分野に関しては記述がずば抜けてよかった。特に本質に迫るような、コラムであっても、みんなで決めるということはどういうこと、多数決で決めていいことと、決めてよくないことがあるんだ、そういう学びってあまり中学校まではないと思う。多数で決めたからいいじゃないかということで、人権に配慮しないといけないということが正確に書かれていて、すばらしいなと本当に感心をしたので、私はもう帝国書院を推すしかないのだが。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 非常に難しいが、意見が出尽くしたということで、採決したいと思う。</p> <p>東京書籍か帝国書院かということで、東京書籍がいいと言われる方、挙手をお願いします。帝国書院がいいなという方、挙手をお願いします。</p> <p>議論をお伺いして、憲法のことや経済のこと、やはり方法論も確かに大切ということだが、内容として本質を突いているということで、私は帝国書院のほうがいいかなということを思ったので、帝国書院に決めていきたいと思う。よろしいか。</p>

<p>全委員 教育長</p>	<p>○ 〈承認〉 ○ それでは、社会、公民的分野は帝国書院とする。事務局から採択理由についてのまとめをお願いします。</p>
<p>指導課課長補佐</p>	<p>○ 1点目であるが、物事の本質に迫る学習活動である点。実生活とつながるような内容ということで、それが2点目とする。考え方について、考え方を身に付けるという点を3点目にさせていただきたいと思う。</p>
<p>教育長 指導課指導副主査</p>	<p>○ 次は、社会、地図について事務局より説明をお願いします。 ○ 地図について各社の特徴を説明する。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 妹尾委員</p>	<p>まず東京書籍である。「環境・資源・エネルギー問題」、「紛争・難民問題」など、現代的な諸課題をまとめた特設ページが掲載されており、グローバルな視野から国際社会について考察することができ、日本のみならず、他国も尊重できる態度を養うことができるようになってきていることが挙げられた。 次に、帝国書院である。世界の各州の資料に自然環境や産業などのイラストを配した鳥瞰図が掲載されたり、地図活用の技能を身に付けるためのコーナー、「地図活用」が各所に設けられたりしており、生徒の学習意欲や課題意識を高めたり、自主的な学習を促したりする工夫がされていることが挙げられた。 以上である。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 妹尾委員</p>	<p>○ 何か事務局のほうに質問や確認したいことはないか。 ○ 〈なし〉 ○ それでは、地図について、妹尾委員からお願いします。 ○ 地図はもう、何というか、地図の見やすさということが好みに近いところがあるし、何か言語化することが難しいが、とにかく帝国書院は見やすく、つくりというか、レイアウトというか、地図が見やすかった。あと、すごく細かいことで申しわけないが、私の郷里が市町村合併に伴って市庁舎が移動しているところを正確にアップデートされていたということが決め手で帝国書院にさせていただいた。</p>
<p>片山委員</p>	<p>○ 私も同じく帝国書院がいいと思った。やはり、今もおっしゃられたが、2冊でサイズ感が違う。帝国書院は縦長で、東京書籍は横に広い形になっていて、厚さもちょっと違うが、私もどちらも、興味深く見せていただいたが、帝国書院が若干地図中の配色が明るくて鮮明なのかなと思った。特に岡山の子どもたちというのは、ある作品とかを見ながら、地図から必要な情報を探すということが苦手だということが課題に挙げられているので、まずはしっかり見てくれないといけないなと思っている。そういう意味で見やすいということは、そこをしっかりと見る一つの手がかりになるのかなと思った。 それから、もう一点、各地域の地方の農業とか工業とか資源、人口などと日本全体との関連というものが、関連付けられて示されていたので、自分のところの地域と、今度は日本の国の中で自分の地域はどうなのか、そういった日本の中での地域という、そういう視点もあわせて意識できるようなつくりをしていて、やはりしっかり地図から必要な情報を読み取る、興味関心をもって読み取るという点で、帝国書院がいいと思った。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ 私もやはり帝国書院の地図がいいなと思った。片山委員がおっしゃったように、色調とか配色が鮮明で、とてもわかりやすいし、鳥瞰図も見応えがあって、地図を見ることが楽しいという思いにさせてくれるなという気がした。また、地図活用というコーナーがあるが、これが学びを深めるきっかけづくりになっているなど非常に興味をもった。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 東京書籍を挙げさせていただきたいと思う。私も長年使用されている帝国書院についてなじみをもって拝見していたが、帝国書院の中で世界の先端企業というものが紹介されている。その中でソフトウェアの売上高をもとにしてIBMが一番に示されているが、30年前だったらIBMが一番というのは皆さんも認知されていたと思うが、今はIBMが一番というのは、専門家の方も思っ</p>

	<p>てないし、一般の方も思っていないのではないのかなと思っていて、時価総額で実際に見てみると、確かに30年前、IBMは世界で一番だったが、今は、皆さんご承知のとおり、AmazonとかGoogleのほうがよっぽど上にあつて、何でこんな表現をしているのかなというところで、ちょっと疑問をもったというところがある。</p> <p>一方で、東京書籍は、最初の巻頭のところで、現代的な諸課題についてビッグピクチャーで見られるようになってきているという点が、全体を見通しながら問題を捉えるという意味で、やはりいいなと思った。アメリカのところで見てみると、例えば人種について一歩踏み込んで、人種、民族別の平均収入とか、アメリカで働くヒスパニックの業種別割合というところまで踏み込んでいて、それについて生徒自身が考えるきっかけを多く与えているなという点で東京書籍は素晴らしいと思い、東京書籍を挙げさせていただきたいと思う。</p>
教育長	○ これも3対1で割れた。何か意見を交わしていただきたい。ちょっと厚さも違うようである。
妹尾委員	○ 大分イメージが違うものである。IBMのところまでは私も読み込めていなくて、ちょっとびっくりした。
河内委員	○ 東京書籍は、資料は非常に充実している。だから、その分、地図のほうが、ぱっと目につくのは帝国書院のほうで、どちらをとるかということ。
教育長 妹尾委員 教育長	<p>○ 確かに帝国書院のほうがちょっと明るい感じである。</p> <p>○ すごく見やすい図面になっている。</p> <p>○ なかなか議論というのも難しいが、帝国書院か東京書籍かということで採決したいと思う。</p> <p>帝国書院に賛成という方、挙手をお願いする。</p> <p>それでは、地図は帝国書院ということに決まった。事務局より採択理由についてのまとめをお願いする。</p>
指導課課長補佐	<p>○ 地図帳が明るく鮮明であること。見やすさや配色についてといったことが1点目とさせていただく。</p> <p>国と地域などを関連させて考えることができるといった視点についてを2点目とする。</p> <p>地図活用が設けられていて、生徒の学びを深められる点を3点目とさせていただきたいと思う。</p>
教育長	○ 地図は帝国書院ということを決める。
指導課課長補佐	<p>次は数学である。では、事務局から説明をお願いする。</p> <p>○ 数学について、各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。章のタイトルがめあてにつながるようになっており、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。また、第1学年にゼロ章を設定し、小学校算数から中学校数学にスムーズに移行できるよう構成されていることが挙げられた。</p> <p>次に、大日本図書である。各章のはじめは、写真やイラストなどを使った見開き2ページの紙面で構成されており、新しい学習内容への期待感を高めるような工夫がされている。また、領域ごとに色分けされており、教科書全体において学習のめあてや重要語句、公式、定理などのまとめがはっきり示されているなど、生徒が重点を理解しやすいレイアウトとなるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、学校図書である。章末に「できるようになったこと」や、「深めよう」を配置したり、発達段階に即して、図、式、説明図、吹き出しなどを適切に配置したりするなど、生徒の理解の手助けとなるような構成となっていることが挙げられた。</p> <p>次に、教育出版である。「例」と「問」の間に「例」の適用題である「たしかめ」を設けていたり、同じ間違いを繰り返さないように、よく見られる間違いを「問」で取り上げていたり、基礎基本が確実に定着するよう配慮されてい</p>

ることが挙げられた。

次に、啓林館である。学んだことを表現する「説明しよう」、「話し合おう」、「まとめよう」を設けることで、理解を深めたり、学びを広げたりする学習活動を展開するように工夫されていることが挙げられた。

次に、数研出版である。章のはじめの「ふりかえり」で、その章の学びに関連する既習事項を振り返ったり、学びを進めていく段階でも既習事項の内容に関連したところにある「ふりかえり」のコーナーで振り返ることができるようになっていたりするなど、基礎基本を確実に定着させることができるように配慮されていることが挙げられた。

最後に、日本文教出版である。原則として見開き2ページが1時間の授業内容となっており、「めあて」が配置され、生徒にとって授業の見通しがもちやすい構成になっている。また、タイトルのついた「例」をきめ細やかなステップで設定しており、基礎基本が確実に定着するよう工夫されていることが挙げられた。

以上である。

- 何か確認したいことや質問はないか。
- 〈なし〉
- 数学に関してはたくさんの教科書があって、いろいろ拝見していく中で、迷い、迷いであるが、やはり第一点は、私は今回、この数学に関しては、数学嫌いの子どもでも数学に取り組めるという視点で教科書を見ていくことに決めて見させていただいた。その中で、どちらにもすごく工夫があって、これだったらいいかなと思うのはたくさんあったが、中でも啓林館の教科書だと、各章の方向がいつも日常的な事柄を挙げてある。自分の身の回りにもありそうなことから数学の知識につなげていくというところの工夫が、どんな子どもでも興味関心をもって数学の世界に入っていけるのかなと思った。

また、みんなで学ぼう編と、自分から学ぼう編というように分かれていて、やはり苦手なお子さんについては、自分から手を付けられないところに、みんなで学んでいく中で、少しずつ興味を高めていけるような、そういう学習の形態という意味で、数学にいざなう、みんなをいざなってくれるという、そういう視点がふんだんにいろいろなところに生かされているのかなと思った。

それから、広げようという、その学習の仕方が徐々にステップアップしていく中で、理解を深めて、問いを出して、練習問題、さらに広げようで、どこで自分がつまずいたかということも、そのステップを踏んでいく中でつまずきの地点というものを明確にしやすくして、どこから自分がもう一回振り返り、友達と学んでいったらいいのか、そういう自分の学びの振り返りとか、到達度みたいなものも確認しながら進めていけるという点で、私は啓林館を推したいなと思った。

- 私も啓林館が一番いいと思った。各教科とも、その教科の見方・考え方というものがすごく重要だと思う。特に数学というのは、数学的な見方・考え方というものが身に付いていないと、主体的に学べないというか、いろいろな問題が出てきたときに、やはりその見方・考え方を生かして、そして新しい問題に挑戦していくということをしていかないといけない。そのためには非常に重要だと思っているので、この見方・考え方が身に付けられるような展開が、やはり啓林館が一番すぐれているかなと思った。

既習事項を生かして、そして学んだことを生かして広げようで、新しい学びに出会って、具体的な例で理解をして、問いで確認するという、そういう中で数学的な見方・考え方がスパイラルに身に付いていくような、そういう工夫がなされているなということを思った。

それで、先ほど事務局から言われた大日本図書も、確かにレイアウトはすごい。数学が得意でない私がちょっと目を奪われるような、そんな感じもした。

- 啓林館を挙げさせていただきたいと思う。いろいろ見させていただいて、確

教育長
全委員
片山委員

河内委員

石井委員

	<p>かにおっしゃられるとおり、大日本図書とか、あと他の教科書も身近な場面を設定したりとか、実際のデータを使ったりということで、主体的に取り組めるような仕組みというのは各社されている。だが、私も片山委員と一緒に数学嫌いの人がどうなるかという視点で見させていただいたときに、特に数学については、今のところ最終的には先生次第という要素が非常に大きいのではないかなと思っている。ネットで「数学」、「先生」って入れると、国語、先生とか、社会、先生では出てこない、嫌いとか怖いとか性格とか、そういうことが検索で自動的に出てくる。数学が嫌いなのか、数学ができないからそうなっているのかはわからないが、それぐらいやはり恐怖感があるものになっているのではないかなと思う。今、YouTubeとかですごく人気の先生が出ているなど、そういった意味で、やはりその部分でかなり変えられる要素も、もしかしたらあるのではないかなという部分も強く感じていて、そういう意味で、一番基本的でしっかり学びができるようになってきているものが、啓林館なのかなと思う。自由度も高いし、先生方に期待するという意味を含めて、啓林館を挙げさせていただきたいと思う。</p>
妹尾委員	<p>○ 私はかつての数学少年であったが、啓林館と数研出版で悩んだ。数研出版は高校ではおなじみの教科書で、やはり数学の出版社という感じで、非常にきれいでシンプルでうまく説明がされているが、結論としては、皆さん方と一緒に啓林館を推させていただく。</p> <p>先ほど片山委員が指摘されていたと思うが、丁寧で最初の取っかかりのところからうまく導入している。数学が苦手な子でも取っかかりができていくのではないかと、うまくやると自習とかもできるのではないかと思った。特にノートのとり方等も含めて、丁寧に学習方法も記載されているというのも一つの要因である。ということで、啓林館を推させていただくという次第である。</p>
教育長	<p>○ 皆さん、啓林館ということで意見が出たが、何か付け加えてとか、言い忘れたこととか、変えてもいいかなとか思っていることがあればお願いします。</p>
石井委員	<p>○ 来年度からハードのタブレットが生徒一人一人に配られるということで、まだ教科書がそれをどう活用して、それらを使えるかというところまで、そのタイミングが合っていないと、やはり早い段階で生徒それぞれにカスタマイズされたような、数学というのはそういう要素がかなりあると思う。そういう教科書に変わるか、あるいは本当にもうそこから先生が飛び出してくるようなことでもいいのかもわからないが、そういったタブレットとの連携を教科書の中でも、あるいは副教材の中でぜひ図っていただきたいなという思いをもっていることを付け加えさせていただきたいと思う。</p>
教育長	<p>○ では、意見が一致しているようであるので、数学は啓林館ということで決定してよろしいか。</p>
全委員	<p>○ 〈承認〉</p>
教育長	<p>○ では、啓林館にしたいと思う。採択理由をお願いします。</p>
指導課課長補佐	<p>○ 1点目である。教科の見方・考え方が身に付けられるような展開となっており、見方・考え方を生かして主体的に学べるようになっている点。</p> <p>2点目であるが、ノートの取り方にも触れられていたり、学習方法が丁寧にまとめられていたりする点。</p> <p>最後であるが、身近な場面から身の回りのことから数学につながられている点などを挙げさせていただきたいと思う。</p>
教育長	<p>○ 次の種目は理科である。事務局から説明をお願いします。</p>
指導課指導副主査	<p>○ 理科について各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。各節で課題が明記されており、その課題に対する結論を「課題に対する結論を表現しよう」で生徒自らがまとめられるようになっている。また、章末には結論の例文が示されており、学習内容を整理しやすくなっていることが挙げられた。</p> <p>次に、大日本図書である。章末には章末問題、単元末には「まとめ」、「単元</p>

末問題」が掲載されており、基本的な知識の定着を図るとともに、読解力問題で学びを深めることができるようになっている。また、「まとめ」では重要用語がキーワードとして示されており、復習の際に確認できるようになっている。

次に、学校図書である。巻頭の「理科のトリセツ」では、探究の進め方や授業を受けるコツなどがわかりやすく示されており、基礎基本の定着を図られるよう工夫されている。また、探究の課程が図や写真、コメントなどでわかりやすく示され、学習したことを系統立てて考えることができるようになっていることが挙げられた。

次に、教育出版である。各単元末の「要点と重要用語の整理」では、紙面右側に配置された重要用語をノートなどで隠しながら穴埋め形式の問題で確認できる工夫がされており、家庭学習に取り組みやすくする配慮がされていることが挙げられた。

最後に、啓林館である。実験のページでは、目的、方法、結果、考察の過程が一本のラインで1ページに示されている。また、結果から何を導き出すのか明確に示され、次のページにわかりやすく表記されているため、生徒が系統立てて学べるようになっていることが挙げられた。

以上である。

- 何か質問、確認事項はないか。
- 〈なし〉
- それでは、理科は河内委員からお願いします。
- 理科の教科書というのは、興味関心というものが沸き立たせられるような、そういう教科書がいいのかなという思いで見に行った。啓林館、それから学校図書の写真や図とかというのはそういう点ではインパクトがあって、意欲がかき立てられるような工夫がなされているなということを思った。

その中で、啓林館の探QのQはクエスチョンで、そのクエスチョンという疑問を大切に学習を効果的に進められるように工夫されているというところが、何か理科をわくわく感をもって学習を進められるというところで、すばらしいなと思った。

- 2社挙げさせていただきたいと思うが、東京書籍と啓林館を挙げさせていただきたいと思う。

東京書籍は、他の科目でもあるが、問題、発見、それから仮説、実験、それから分析して活用するという、そういう思考のマークが明確に各ページで示されていて、実社会において極めてそういうフレームワークを使うということは非常に身に付くことが、役に立つのではないかなというところと、問題発見というところも大事にされている点で、価値が高いと感じている。

啓林館については、つながる学び、つながるページというものがあって、学習の流れが関連付けられていたり、数学とか算数とのつながりも関連付けられていたりするところが非常にいいと感じた。あと、間違いやすいことを正しく理解するポイントというものが示されていて、丁寧な内容になっているのではないかと感じている。

- 私も啓林館を推したいと思う。教科書の選定に携わって驚くのは、自分が学んでいたときからの進化がすごいなというところがあって、それが著しいものが理科の分野の教科書であり、まず見た目から違う。科学とかサイエンスって、本当にその名に恥じないような感じのつくりになっていて、各社すごく工夫されていてすごいなと思った。その中でも啓林館を推させていただく理由は、図や写真が非常に豊富に用いられていながらにして、シンプルで見やすいので、段階的な学習で順を追って読んでいけば、自学自習もできそうな、そういうつくりになっているということ。その中で学習のまとめであるとか、力試しとかというのも非常に有用なのではないかなと思った。

- 啓林館、東京書籍、大日本図書の3社ですごく悩んで、最終的にはやはり啓林館がどんな子どもにも取っつきやすいのかなと思った。

教育長
全委員
教育長
河内委員

石井委員

妹尾委員

片山委員

まず、大日本図書ですごくおもしろいなと思ったことが、各分野の最後に読解力問題というものが設けられていて、これは何か最近の子どもたちはよく、必要な情報を得て、資料等から自分が必要な情報をしっかり読み取って生かすという力がなかなか付きにくいというようなことを耳にすることが多いので、そういった意味では理科の中で読解力問題というものが非常におもしろいなと思った。

啓林館を最終的に選ばせていただいた理由は、理科もやはり苦手と得意のお子さんがあるのかなということと、特に化学は、いろいろな現象が日常生活の目に見えないところにあるので、どうしてそれを学ばないといけないのかとか、その学ぶことによって何がわかるようになって、どんなことが日常に生かされていくのかといったところで、学び方に興味関心を持てるような内容を具体的にイメージしながら学習できるようになっていることである。やはり啓林館が最も図表が効果的に多数使用されているなど感じた。

それから、学びの見通しが立てやすいことと、学ぶ前にトライ、学んだ後にリトライということで、同じ問題が2度出てくる。そうすると、最初はできなかったけど、学んだことによってできるようになった、そういう自分の成長、理解による、学びによる成長というものも、いろいろな立場のお子さんが実感しやすいのかなと思った。

最後1点、啓林館の書籍の中で、事故が起こりやすい実験に関して、いつも同じ位置に注意事項というものが出てくる。他の教科書の中でも、必ず実験の危険なところがしっかりと示されているが、啓林館はいつも同じ位置にその注意というものが入っているので、同じところを見て、「ああ、ここは危ないところなんだな」ということが一目でわかる。やはり実験をして事故につながるというのは一番怖いし、何に注意すれば事故が起こらなくて済むのかということ、一人一人が自覚する意味でも、いつも同じ位置にその危険が示されているということは、自己学習にもなるし、意識化するのにもいいのではないかなと思ひ、最終的には、啓林館を挙げさせていただきたいなと思った。

教育長
石井委員

- 石井委員、まだ悩んでおられるか。
- 今、お伺いする中で、啓林館については、他のよい点というのもお伺いして、全般的に言えば、やはりいろいろなところで丁寧に構成がされているということ。それから、今の実験のお話も含めて、教科書がすごく丁寧に考えられているのではないかなということを改めてお伺いして思った。なので、私はどちらかといえば、啓林館がいいと思っている。

教育長
全委員
教育長

- これは、全員一致で啓林館ということで決定してもよろしいか。
- 〈承認〉
- では、理科は啓林館ということで進めていきたいと思う。
採択理由について、お願いします。

指導課課長補佐

- 1点目は、単元末の探Qなど、疑問を大切にし、興味をもって取り組めるような点。
2点目は、シンプルで見やすさの中にもレイアウトの工夫がある点。
3点目は、自学自習につながるような工夫がある点を挙げたいと思う。

教育長
指導課指導副主査

- 次は音楽である。事務局のほうから説明をお願いします。
- 音楽一般について各社の特徴を説明する。
まず、教育出版である。「○○を作ろう」では、生徒が興味をもって取り組めるような課題を段階的に設定しており、活動手順に沿って進めることで創作の基本を身に付けながら創意工夫できるようになっていることが挙げられた。
次に、教育芸術社である。「深めよう！音楽」では、各自が聴き取ったことと
感じ取ったことを書き入れた後、話し合う活動が取り入れてあったり、曲を形づくっている主な要素が示されていたりするなど、曲を分析したことを基に、友達と意見を交流しながら表現の工夫につなげることができるように工夫されていることが挙げられた。

<p>教育長 全委員 教育長 河内委員</p>	<p>以上である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何か質問や確認したいことはあるか。 ○ 〈なし〉 ○ それでは、各委員からの案を伺いたいと思う。 ○ 2社だけなので、両者を比べた形で感想をお話しさせていただく。まず、結論からいうと、私は教育芸術社がいいなと思った。他の教科に見方・考え方があるように、音楽の学習ではリズムだとか旋律だとかハーモニーだとかの、その音楽の要素を捉える力というものを付けていく。要素を捉えて曲を味わったり、要素を捉えて表現を工夫したりという音楽的な要素というものがものすごく重要になってくる。教育芸術社のほうが、この音楽の学びに欠かせない音楽的要素、音楽の要素の視点から、それを育てていこうとして構成され、しっかりと考えられているなという気がしている。例えば具体的に言うと、題材の下に着目させたい音楽の要素が示されていて、要素を意識しやすいとか、要素を押さえながら学習が次の題材に進んでいけるような、そういう配列となっていること。例えば、1年生では、最初に音色と、それからテクスチュアの要素に着目をして、そしてその次に旋律と強弱に着目をしていって、そして旋律と強弱と、今度は形式を新たに考えていこうというような配列の仕方、要素を一つ一つ押さえながらいくというような配列がなされるということ。これがすぐれているなということを思った。 <p>それから、表現と鑑賞を一体的に、あるいは関連付けて学習できるようにしている。例えば、リズムをつくる時に、つくり方を生かして次の歌唱教材で曲の構成を捉えていくというようにして、歌唱、創作、鑑賞を別々にしないで、一体的に学んだことをそれぞれのところで生かして学習できるようにするところがよく考えられていると思った。</p> <p>ただ、教育出版の教材曲が非常に魅力的な曲が多い。全部私もピアノで弾いて歌ったり、演奏したりしてみたが、魅力的である。教育出版のほうは要素を学びのユニットとして、それが表記の仕方がわかりやすくいいなと思ったが、それがどのように実際の授業で使われていくかというところで、やはり教師がちょっと一工夫しないと、それが教科書の中でわかりやすくはなっていないところだと思う。</p> <p>以上のような理由で、教育芸術社を選んだ。</p>
<p>片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私も教育芸術社を挙げたいと思った。あまり専門的ではないが、私は岡山市の子どもの課題として、音楽によって喚起された自己のイメージを音や音楽、及び言葉によるコミュニケーションを図りながら試してみたり、思いや意図をもったり表現したりすることに課題があるというところに着目して、二つを比べさせていただいた。 <p>学ぶ側として音楽によって喚起された自己のイメージを、どちらが豊かに持ちやすいかなというところを見たときに、どちらもすごくイメージが豊かになるような工夫がなされていた。教育芸術社のほうは、写真とかワークがいろいろ挿入されていて、なかなかイメージが湧いてこない子どもにも、いろいろな視覚的にも、感覚的にも音楽を感じられるような手がかりを示してくださっている。そういう意味で自分が音楽を感じるという意味での体験的な学びにつながるのではないかなと思った。</p> <p>もう一点、教育芸術社は、音楽を介して個人の感じ方を大切にしながらも、友達の感じ方ということにも触れるところを随所にコラムというか、コーナーを設けていて、みんなで音楽を感じる、楽しむ、そして表現するという、そういう感覚的な学び、あるいは体験的な学びという意味で、教育芸術社がいいなと思った。</p>
<p>妹尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私は、結論としては教育芸術社である。 <p>私もそんなに音楽に造詣があるわけではないので、何とも言えないところであるが、そういう人の視点から見て、音楽が苦手な子、あるいは嫌いな子でも</p>

石井委員	<p>取っつきやすいのではないかなと思う。例えば野村萬齋さんだとか、松任谷由実さんだとかが教科書の冒頭に出てきているというのは、すごくやはりインパクトがあるし、僕らが学生時代には考えられなかったようなことであるが、いかにも楽しそうというところと、写真やイラストも豊富で、非常にレイアウト的にも興味を引かれる体裁になっているのではないかなと思った。それが理由である。</p> <p>○ 教育芸術社を挙げたいと思う。視点としては、妹尾委員がおっしゃられた視点と一緒に、生徒の中で今流行っている音楽と教科書の中に出てくる音楽というのはやはりずれがある中で、その中で歴史のある音楽というものを今の社会と、今生きる社会とつなげようという意図が感じられて、今、音楽が社会の中で果たしている役割とか、魅力というものを伝えようという、そういう意図が感じられたように思う。</p> <p>それから、デザインとか写真とかイラストというのも魅力的で、興味をもって取り組めるのではないかなと感じた。</p>
教育長	<p>○ 皆さん、教育芸術社ということで決めていきたいと思う。何か付け足して意見があればと思うが、何かあるか。</p>
全委員 教育長	<p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、音楽一般は教育芸術社に決めたいと思う。事務局から説明をお願いします。</p>
指導課課長補佐	<p>○ まず1点目であるが、表現と鑑賞などが一体的に学べるようになっている点である。</p> <p>2点目は、写真やマークなどにより視覚的、感覚的にも自己のイメージを豊かにできる点である。</p> <p>3点目であるが、社会の中での音楽の役割や魅力を感じられる点を挙げさせていたいただきたいと思う。</p>
教育長 指導課指導副主査	<p>○ それでは、次は音楽、器楽合奏である。</p> <p>○ 音楽、器楽合奏について各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、教育出版である。楽器の背景にある文化や伝統について調べる発展的な内容が取り入れられたり、名曲旋律集では、歌唱及び鑑賞教材とリンクした楽曲が多く取り上げられたりしており、生徒の学びを深められるようになっていることが挙げられた。</p> <p>次に、教育芸術社である。3年間に学ぶ学習内容について、題材と音楽を形づくっている要素との関連がわかりやすく色分けして示されており、見通しをもって学習に取り組んだり、視点を明確にして学習に取り組んだりすることができるようになっていることが挙げられた。</p> <p>以上である。</p>
教育長 全委員 教育長 片山委員	<p>○ 器楽合奏について、何か確認したいところ、質問などはないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、片山委員からお願いします。</p> <p>○ 私は、先ほどの一般のほうと同じで、教育芸術社を推薦したいと思う。理由は、先ほどもあったが、やはり音楽では、今度は聴くとか、鑑賞することだけではなくて、実際に器楽合奏となると、得意、不得意というところがあると思った。その中でこちらの教育芸術社のほうは、楽器ごとに演奏を聴いて、楽器を知って、その楽器にちなんだ郷土の祭りや芸能というものができて、そこから実際の楽器の部位とか、使い方等に学習が進んでいくので、その段階的な学びのプロセスによって割と敷居が低く学習に入っていけるのかなと思った。以上から、教育芸術社を推薦したいと思う。</p>
妹尾委員	<p>○ 私も教育芸術社である。理由としては、一つは掲載されている曲が割となじみ深いものが掲載されているということと、もう一つは、先ほどの一般のほうの音楽との統一性ということで、ワンセットでと、その2点である。</p>
石井委員	<p>○ 教育芸術社を挙げさせていただきたいと思う。理由も先ほどと同じであるが、</p>

	<p>社会とのつながりという意味で、例えばギターの箇所であれば、去年のラグビーのワールドカップで盛り上がったカントリーロードが出てくる。それで、社会で盛り上がったところに音楽がいかに関に立ったかとか、役割を果たしたかということを感じられる内容になっていて、そういう点が新しい学習指導要領を捉えているのではないかなと思ったし、デザインについても、先ほどと同様に、よかったと思う。</p>
河内委員	<p>○ 私も教育芸術社の教科書がいいと思っている。単に器楽を技能習得ということではなく、やはりこの中で音楽の要素も、器楽のほうにも一貫して育てていく、いこうとする、そういう工夫がなされている。 ギターの技能のほうは、教育出版のほうがわかりやすく具体的でいいかなと思う。リコーダーのほうは、逆に教育芸術社のほうが段階を追って育てていけるような工夫になっていると思った。それぞれよさはあったが、やはり決め手は音楽の要素に着目する力を大切にしていくというところである。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>○ 皆さん教育芸術社ということであるが、何か付け加えたいことなどあるか。 ○ 〈なし〉 ○ それでは、器楽合奏は教育芸術社ということを決めていきたいと思うが、事務局のほうでまとめをお願いします。</p>
指導課課長補佐	<p>○ 1点目であるが、音楽と社会とのつながり、役割が感じられる内容になっており、新学習指導要領の内容を捉えているという点。 2点目は、楽器を知り、そして実際に演奏につなげるという学びのプロセスが見られるという点。 3点目は、技能の習得のみならず、音楽の要素を捉えることができるようになっており、また音楽の要素に着目する力を大切にするという内容になっているという点を挙げさせていただきたいと思う。</p>
教育長 指導課指導副主査	<p>○ それでは、次は美術である。事務局から説明をお願いします。 ○ 美術について各社の特徴を説明する。 まず、開隆堂である。「日本らしさ」を鑑賞の中心的課題に据えた題材を14ページにわたって設け、絵巻物や浮世絵など、日本の文化を系統的に学習することができるようになっていたことが挙げられた。 次に、光村図書である。発想を広げるための具体的な手立てが示されたり、情報機器を使った表現が豊富に掲載されたりしており、生徒自身の表現に生かすことができるように工夫されていることが挙げられた。 次に、日本文教出版である。原寸大の図版が多く取り入れられており、生徒の学習意欲を喚起することができるようになっていた。また、身近な題材や幅広いジャンル、社会や環境とのかかわりのある題材などが発達段階に応じて3冊の分冊にダイナミックな資料とともに掲載されており、各学年の学びを深められるように配慮されていることが挙げられた。 以上である。</p>
教育長 全委員 教育長 妹尾委員	<p>○ 各委員から何か確認したいこと、質問はないか。 ○ 〈なし〉 ○ それでは、妹尾委員からお願いします。 ○ 私は、光村図書を推したいと思う。中身を拝見すると、選定資料にも書かれているが、基礎的で具体的な技法だとか、基本的な事柄が豊富に取り上げられていて、基礎の定着につながるようになっていたのではないかなと思った。デザインだとかレイアウトもそうであるが、結構格好よくて、美術の創作意欲を喚起し、そういったことにつながるのではないかなと思った。</p>
石井委員	<p>○ 日本文教出版を挙げさせていただきたいと思う。まず、1年生の教科書の表紙でこのフェルメールの原寸大であり、もう圧倒されるというところが、まず最初にドーンと入ってくるというところである。他にも原寸大でかなりいろいろなものが提示されていて、興味をもって取り組めるという点を挙げさせていただきたいと思う。</p>

	<p>もう一つは、ビジネスの世界でもデザインの重要性というのはかなりどんどん高まってきているのかなと思っている。その美術の内容が人生とかいろいろな社会シーンですごく役割を果たしているという部分について、魅力的に示されているというところが主体的に学べて、そして、それが社会に出て生かしていこうというところにつながっていくのではないかなと思って、日本文教出版を選ばせていただいた。</p>
河内委員	<p>○ 私も日本文教出版がいいなと思った。石井委員がおっしゃったことと同じことを思った。1年生の教科書、ものすごく魅力的で、最初にぱっと心を奪われた。そういう何かダイナミックで心を奪われるような作品がたくさん掲載されていて、美術への興味関心、それから創作意欲をかき立てるような、そういう紙面が多くあったように思う。</p>
片山委員	<p>特にその中で採用されている生徒の作品というものが、自分も手が届きそうな感じがするとか、つくってみたいとか、描いてみたいと思えるような、そういう親近感が湧くものがたくさん取り上げられていたかなと思った。</p> <p>○ 私も日本文教出版を推薦したいと思った。理由は、皆さんもおっしゃったが、私はどうしても美術というと、自分もそうであるが、視覚的に上手、下手ではないが、その差は誰が見ても一目瞭然みたいなところがあり、何か結果に目が行きがちだと思う。そこからどうしても得手、不得手みたいなのも出てきたりするのかなと思いつつ、教科書を見せてもらった。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>日本文教出版にはその結果に至るまでの創作の発端から、新たな美術の見方とか、そこが表現されるに至った経緯というものを大切に示されている感じがある。できた結果だけではなく、そこに至る過程で自分のいろいろな思いをもって、それを造形的な視点に生かしていくというところで、中学生の多感な時期に、自分らしい見方というものがあるといいのではないかと、何かすごく日本文教出版の教科書に感銘したので、日本文教出版を推薦したいと思った。</p>
指導課課長補佐	<p>○ 3対1になったが、何かお互いで聞いてみたいようなことがないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、手を挙げていただきたいと思う。美術の教科書であるが、日本文教出版か光村図書かということで、日本文教出版がいいと言われる方、手を挙げていただきたい。</p> <p>それでは、美術は日本文教出版ということで行きたいと思う。事務局から、採択理由についてのまとめをお願いします。</p>
教育長 保健体育課係長	<p>○ 1点目であるが、原寸大が取り入れられており、ダイナミックで魅力的な作品があるということ。</p> <p>2点目は、生徒の作品などから、自らつくってみたいと思えるような親近感が湧き、生徒の学習意欲を喚起することができるようになってきている点。</p> <p>3点目は、学習過程で自分らしい見方ができる点を挙げさせていただく。</p> <p>○ それでは、次は保健体育である。説明をお願いします。</p> <p>○ 保健体育について、各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。「見つける」では、日常経験や小学校で学習したことを基に考えたり、「活用する」で習得した知識を基に考え、表現したりできるようになっていることが挙げられた。</p> <p>次に、大日本図書である。1単位時間見開き2ページを基本構成とし、左側ページに文章・トピックス、右側ページに資料を掲載した構成になっており、本文と資料を明確に分けることで学習内容の要素が見やすくなるように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、大修館書店である。章の扉のページでは、今後の学びについて自分自身の生活との関連について考えることができるようになっていたり、小・中・高の学習内容が示され、内容のつながりを確認できるようになっていたりしていることが挙げられた。</p>

<p>教育長 全委員 教育長 石井委員</p>	<p>最後に、学研教育みらいである。保健体育にかかわる職業や資格が見開きで紹介されるとともに、学習内容に関する職業が該当ページに掲載されており、キャリア教育の視点でも活用ができる構成になっていることが挙げられた。</p> <p>以上である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何か確認したいこと、質問などはないか。 ○ 〈なし〉 ○ では、石井委員からお願いします。 ○ 皆さんの意見をお伺いしながら決めさせていただきたいと思うが、学研教育みらいと大日本図書を挙げさせていただきたいと思う。
<p>河内委員</p>	<p>理由としては、2社とも実社会と科目のひも付けがしっかりされているという点を挙げさせていただきたいと思う。それに加えて、大日本図書は図とかグラフ、絵、写真の資料がしっかりしていて、知識がしっかり身に付いていくなという点は、いい点だと感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私は、東京書籍か大日本図書か随分迷った。結論としては東京書籍がいいと思った。それは、他の教科も同じように、活動を通して課題をつかんで資料や話し合いを通して解決を図るという、課題解決学習の過程がきちっと押さえられているということ。もう一つ、巻頭のメッセージというものがすごくインパクトがあって、スポーツの意義とか目的とかSDGsの考えという根本的なものを反映したようなメッセージがなされている。これも随分迷った後に、決定した一つの大きい理由だったと思う。
<p>片山委員</p>	<p>大日本図書も、ねらいというものが設定はされているが、つかもうということ考えたり、話し合ったりして、課題を主体的につかんでいけるような、そういう工夫がされている。これも課題解決学習としての、大切なところを踏まえていらっしゃるなということ、最後まで迷ったということである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私は東京書籍を推薦したいと思った。理由としては、目次の中でたくさん扱ってある、思春期の発達成熟期、大人になる体の中での変化の大きい心と体のところを細やかに扱っておられるなという感じがしたこと。特にいわゆる課題解決の中で、自分の身体的な発達の悩みなどをコラムの中で挙げながら、そこどう向き合っていくか、その中で友達との対話とか学びを通しながら、一緒に問題解決を図っていくか、というような視点などがあって、学んだことをやはり誰もが悩みに思ったり、考えたりする事柄をつまびらかに授業の中でも扱って、それを協働的に解決していくという意味で、自分への悩みの解決にもつながるかもしれない。そういったことを思うことも肯定される感じもあるだろうし、そういった意味で、思春期のところは子どもたちの目線ですっかり編集しておられるのかなというところで、東京書籍を推薦したいと思った。
<p>妹尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私は大日本図書である。理由としては、写真であるとかイラストが効果的に配置されていて、見やすくわかりやすいということと、先ほど河内委員から指摘があったが、活用して深めようとか、学びを生かそうというコーナーで生徒が主体的に考える契機があるのではないかと考えた。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健体育も意見が割れておるが、何か付け加えて話しておきたいようなことはないか。
<p>河内委員</p>	<p>大日本図書と東京書籍と学研教育みらいの推薦があったように思う。</p> <p>片山委員が言われた、まさに思春期真っただ中の中学生の教科書であるから、そういった扱いなどは非常に大切なところである。</p> <p>あとは例えば、禁煙教育とか、ちょうどそのころの子どもたちが陥りやすい、今は、薬物等もかなり取り上げられていたりするから、これはおそらくどれも扱っていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のこととして捉えたり、生活に生かしていこうとしたりする、そういうところはどちらも大切にされている。それで、すごく迷った。ただ、片山委員がおっしゃったように、東京書籍は記述がすごく丁寧であった。
<p>片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ おっしゃるとおり、大日本書籍もいわゆる学習という意味では、キーワード

教育長	<p>がきちんとチェック項目としてついていたり、自分たちで学習をさらに深めていくようなコラムの学習のねらいであったか、そういったものも明確にされていたりして、その部分もよいとは思った。私は何かちょっとフォーカスし過ぎている部分はあるのかもしれない。</p>
教育長	<p>○ 採決にしてもよろしいか。それでは、二つに絞って、大日本図書か東京書籍かということによろしいか。 では、大日本図書がいいと言われる方、手を挙げていただきたい。 東京書籍のほうがいい方。</p>
教育長	<p>○ 意見が割れた。やはり、片山委員が言われたことがとても印象に残っているので、思春期ということ 키워ワードにして、東京書籍のほうに決めたいと思うが、よろしいか。</p>
全委員 教育長 指導課課長補佐	<p>○ 〈承認〉 ○ では、保健体育は東京書籍でお願いします。説明のまとめをお願いします。 ○ 1点目であるが、思春期の子どもの目線で、心や体の変化についても丁寧に扱っているところ。 2点目は、活動を通して課題解決学習ができるようになっている点。 3点目は、巻頭のメッセージに、スポーツの価値や学ぶ意味が示されており、自分のこととして捉えていくことができるようになっている点を挙げさせていただこうと思う。</p>
教育長	<p>○ それでは、保健体育は東京書籍ということに決まった。 次は、技術について事務局より説明をお願いします。</p>
指導課指導副主査	<p>○ 技術について各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。各編で問題の発見と課題の設定を明確にした基本題材と、五つから八つの問題解決例を配列し、実生活の場面への活用や探究的な活動を促すよう配慮されていることが挙げられた。 次に、教育図書である。各内容が「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」の三つのステップで構成されており、生徒が興味を持続させながら実践的、体験的な学習活動を進め、学んだことをまとめられる構成となっている。 また、基礎技能の定着を図りやすいように、別冊「技術ハンドブック」にまとめられていることが挙げられた。 最後に、開隆堂である。学習のまとめり、小項目ごとに学習の目標が示されており、生徒が学習のめあてをつかみやすくしている。また、「ふり返り」の欄や各章末も「学習のまとめ」により、項目や章ごとにまとめや自己評価ができるように配慮されていることが挙げられた。 以上である。</p>
教育長 全委員 教育長 河内委員	<p>○ 何か確認しておきたいことや質問はないか。 ○ 〈なし〉 ○ では、河内委員からお願いします。</p>
片山委員	<p>○ 結論からいうと、東京書籍の教科書がいいなと思った。巻頭のガイダンスのところで、技術の見方・考え方ということが掲載されており、それから技術の最適化について、しっかり考えていけるような、ああいう一連のページがあった中で、何か夢をかなえるための工夫とか、想像の力が技術を支えるのだというような、そういう大きな技術の意義というか、そういうものがしっかりと伝わってきたような気がする。そして、問題解決のプロセスがしっかりしているので、各編とか各章で一貫してそれが構成されているという、この2点で東京書籍がいいなと思った。 ○ 私も河内委員と同じく東京書籍を推薦したいと思った。先ほど最適化ということもおっしゃられたが、やはり社会や環境の問題解決を図りながら、そのために技術が向上していくという、その進化、発展みたいなものが目に見えるように示してあって、とても興味深いなと思った。それから、やはりこの技術の</p>

	<p>分野も、どうしても道具を使うことになるので、危険ということもあるかなと思うが、いろいろな道具の使い方を比べて教科書を見させていただくと、もっとも写真が細やかに、一番キーになるところが写真として載せられていて、手順もわかりやすく示してあったので、もし、先生の説明を聞き逃しても、それを見ながら自分で作業を進めていくこともできるのかなと思った。以上のことから、東京書籍を推薦したいと思った。</p>
妹尾委員	<p>○ 私も東京書籍を推す。東京書籍の全般的にそういう感じであるが、一つ、その科目のフレームワークというか思考というものが、技術に関しても問題の発見、課題の設定、設計、計画、製作、PDCAみたいな感じで、評価、改善、修正、新たな問題の発見というような形で、わかりやすく示されているというところがよいかと思った。</p> <p>あと、片山委員も指摘いただいた、それぞれの技術の内容も詳細にわかりやすく説明がされていて、自主学習もできるのではないかなということも感じた。</p>
石井委員	<p>○ 同じく東京書籍を挙げさせていただきたいと思う。理由についても皆さんがおっしゃったところと完全に一致しているので、特に申し上げることはないが、それに加えて言えば、技術を活用して活躍する、社会で活躍する人の紹介がされていたりする部分も含めて、それが興味をもって取り組んでいけるとということも含めて挙げさせていただきたいと思う。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>○ 意見が一致しているが、何か付け加えて話しておきたいことはないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、技術は東京書籍ということで採択したいと思う。 では、事務局から理由についてのまとめをお願いする。</p>
指導課課長補佐	<p>○ 1点目である。巻頭のガイダンスで技術の意義について学ぶことができる点。2点目については、問題解決のプロセスがしっかりしているという点である。3点目は、道具の使い方について、ポイントとなるところが写真などで示されており、自分で学習を進めることができるといった点をお願いしたいと思う。</p>
教育長 教育研究研修センター 指導副主査	<p>○ 次は、家庭、事務局から説明をお願いする。</p> <p>○ 家庭について、各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。「自分の生活をチェックしよう」では、学年ごとに自分の生活の課題等が確認できるようになっており、同じページで3年間の成長を比べられるよう工夫されている。また、巻末の「言葉のページ」で衣食住に関する生活用語が解説されており、実生活に即した学習ができるよう配慮されていることが挙げられた。</p> <p>次に、教育図書である。災害時の調理例や非常食、非常時の衣服の備えや洗濯に関するコラムがあり、災害時の対応について生徒が関心をもつことができるよう配慮されていることが挙げられた。</p> <p>最後に、開隆堂である。持続可能な社会をつくるために国連が提言するSDGsの視点がガイダンスに示されており、全ての内容で関連付けられている。内容も身近なことから考えることによって、社会の一員としての自覚をもち、自らの生活を持続可能なものにしていこうとする態度を養うことができるようになっていくことが挙げられた。</p> <p>以上である。</p>
教育長 全委員 教育長 片山委員	<p>○ 何か質問や確認したいことはないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、家庭は片山委員からお願いする。</p> <p>○ 私は、東京書籍の教科書を推薦したいと思う。理由は、やはり生活と密着するという意味で、日々の自分の生活を振り返りながら、自分の生活の中から課題を見付け、解決するための計画を立てて実践し、評価、改善、そして次の課題を見付けるというプロセスがいつも繰り返し学習方法として出てくるので、やはり自分の実践している生活の中にもそれを活用しやすいのかなということも思った。</p>

妹尾委員	<p>もう一点、やはりその具体的な生活をイメージするために写真や素材が豊富に提示されていて、それとこれまでの、小学校までの学びとか他教科との関連というのも随時示されていて、その家庭科だけの学びではなくて、生活全般的に、さまざまな教科とのつながりも意識して教科書が構成されているなど思ったので、東京書籍を推薦したいと思った。</p>
石井委員	<p>○ 私も東京書籍である。各社、非常にすごいなというか、私のときの家庭の教科書と比べてすごく充実していて、特に日常生活にすぐに役立つような、ライフハック的なことも書かれていたりしてすごいなと思った。</p> <p>その中でも、東京書籍のものが非常にわかりやすく、具体的で身近な事柄が書かれていて、明日から自分の息子がひとり暮らしをするなら、これを持って行ったらと言えるような感じの内容になっているかなと思った。</p>
河内委員	<p>○ 東京書籍を挙げさせていただきたいと思う。中学生の生活自体がいろいろな問題を抱えて、例えばスマホの時間だとか、睡眠とか食事も、朝、食事を食べないとか、そういう問題を抱えていること自体がかなり取り上げられている中で、自分の生活をチェックしようということで、それが巻頭に示されて、それがずっと目にするように示されている点というのは、何か少しでもそれがきっかけになって、自分の生活について考えてもらえるようになればいいなという願いをもった。それから、生活に生かそうという項目があって、その習得した知識や技術が実生活に生かされるようになっているという点を挙げさせていただきたいと思う。</p> <p>一方で開隆堂とか教育図書は、家庭科は3分野に分かれていて、家族、家庭生活が一つ、それから衣食住が一つで、消費生活と環境が一つである。開隆堂と教育図書は、家族、家庭生活から始めているというところがすごく特徴的で、何か幼児とかかわりということ、生徒自身が親になったような気持ちでその後の学習が開始でき、その立場とかその苦労を理解して始められるので、家庭科というものをちょっと立場を変えて、自分のものとしてスタートできるのではないかなという点については、その2社のほうがいいと思った。</p>
教育長	<p>○ 私も東京書籍がいいと思った。技術と同様、巻頭のガイダンスのあたり、それから問題解決の道筋が一貫しているという点が大きな理由である。特に巻頭のガイダンスのところの自立と共生という家庭分野の究極のねらいというか、それについて、生涯を通してどのように生きていくかという、あのイラストや写真に感銘して、家庭科というか、すごく大きな教育の意義があるのだなということに改めて感じて、こうした基本姿勢をもって生徒が学んでいくということがとても大切なことだなと思った。</p>
全委員 教育長	<p>○ 皆さん一致しているが、何か付け加えて言い足りなかったこととかあればお願いします。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、家庭は東京書籍ということで採択したいと思う。説明のまとめを事務局からお願いします。</p>
指導課課長補佐	<p>○ 1点目は、自分の生活の中から課題を解決しようとするプロセスがしっかりしており、学んだことを実生活で生かす、活用できるということ。</p> <p>2点目は、自分の生活を見直したり、考えたりすることができるようになっているという点である。</p> <p>3点目は、巻頭のガイダンスで自立と共生と家庭科のねらい、生き方、意義について学ぶことができるといった点を挙げさせていただきたいと思う。</p>
教育長 指導課指導副主査	<p>○ では、次の英語の説明をお願いします。</p> <p>○ 外国語について、各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。学習した知識、技能を統合的に活用できるよう、「Mini Activity」「Unit Activity」「Stage Activity」という順で、表現活動を系統的に積み上げる工夫がなされているということが挙げられた。</p>

次に、開隆堂である。各プログラムの最初に位置付けられた「Scenes」では、対話形式になったイラストが掲載されており、学習する新出事項や状況設定が視覚的に理解できるよう工夫されていることが挙げられた。

次に、三省堂である。「Reading for Information」では、チラシや地図等から読み取った情報をもとに、英語で実践的なやりとりができるよう工夫されており、言語活動の充実が図られる内容となっていることが挙げられた。

次に、教育出版である。温暖化など地球の環境問題やごみ処理の問題、動物との共存やドギーバッグ（食品ロス）の取組などについて考えをまとめる題材が取り上げられており、生徒が国際的な課題について意識できるようになっていることが挙げられた。

次に、光村図書である。英語を聞いて、その内容を自分の言葉で話す、「Story Retelling」や、テーマに沿った身近な話題を英語でやりとりするための力を育む「Let's Talk」が巻末に帯活動として設けられていることが挙げられた。

最後に、啓林館である。各学期末に配置されている「Project」では、それぞれの学期で学んだことを統合して、自己紹介、インタビュー、日記など、さまざまな表現活動に取り組むことができるようになっていることが挙げられた。

以上である。

- 何か質問や確認したいことはないか。
- 〈なし〉
- では、妹尾委員から案をお願いします。
- 私は非常に悩み、皆さんの意見もお聞きした上で決めたいと思うが、三省堂と光村図書とで悩んだ。三省堂のほうは、より身近で活用しやすい実践的な英語表現を中心としていて、光村図書のほうは、割となじみの深い感じの教科書的な側面もあって、テーマや問いが明確で、自習しやすい側面もあると思った。付録に読み物がついていたりするのもよいかなど思っている。

どちらかという光村図書のほうがいいかなとは思っているが、皆さんの意見をお聞きしてから決めようと思った。

- 三省堂を挙げさせていただきたいと思う。生かせる英語というものが長年望まれてきているわけであるが、まさにここの岡山市の子どもの課題にもあるとおり、この課題を正確に1個ずつどれが一番この課題に即しているかなと見てみた。三省堂は英語での情報を読み取って、実践的なやりとりができるようになっていたりとか、実生活でよくある場面が出てくるとか、あるいは海外で生活したときに、必ず問われる日本についてのことについて発信がされているような取り上げられ方をしているという意味で、課題そのものに最も適合しているのではないかなと感じて、三省堂を挙げさせていただきたいと思う。

- 私も三省堂がいいと思った。各社、イラストの登場人物がストーリーを展開していくというような構成を用いられているが、三省堂の特に1年生の教科書で大変効果的に活用されているなというものがあつた。登場人物が集団で登場して話をしているという場面がボンと大きく出ていて、ともしれば1対1で会話をして、ハウトゥーでレッスンするという、その言い方を学ぶというのではなく、もっと広くストーリーとして捉え、場面をイメージして、いろいろな会話が成り立っていくということ、イメージしながら学ぶことができるということがとてもいいかなと思った。

先ほど妹尾委員がおっしゃった光村図書も、そういう面では1年生のイラストを使ったストーリーが各季節とか、それぞれ今の学ぶ時期に合わせたストーリーになっていて、自分の生活と照らし合わせながら学んでいくことができるというような工夫もおもしろいなと思った。

- 私も実は三省堂と光村図書ですごく悩んでいて、やはり聞く、話す、読む、

教育長
全委員
教育長
妹尾委員

石井委員

河内委員

片山委員

	<p>書く、四つの力、どれも大切だと思うが、やはりこれからの時代、聞く、話すというのはとても大事になってくるのかなと思ったときに、光村図書は、ストーリーの話題を予測する活動が取り入れられている。わからなくても、とりあえず何か言ってみるとか、イメージして、とりあえず答えてみるみたいな、黙るのではなくて、そこから何か自分なりに話のつじつまを合わせていくような力も、これからの社会の中で黙らず、しっかり表現していくという意味では大事なのかな。そういった意味でこの活動がすごくおもしろいなと思って光村図書がいいかなと思っていたが、今、皆さんの話を伺って、三省堂はやはりバランスがいいことと、あと、同じような視点で見たときに、テイクアクションというものが三省堂でも聞く、話す、読む、書くをバランスよく学んだ上で、自ら学んだ知識を表現する力を付けていくというテイクアクションというところでは、光村図書も捨てがたいが、三省堂がいいのかなというところで、三省堂を推薦させていただきたいと思う。</p>
<p>教育長 妹尾委員</p>	<p>○ 光村図書の良さもあるが、何かもっと付け加えて話したい点はないか。 ○ 今の委員の話をお聞きしていて、実践的なというものが、そこが重要なのかなということはあるので、三省堂を推薦する。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ では、三省堂で皆さん一致したということで、外国語は三省堂を採択するというので決めていきたいと思う。事務局からまとめをお願いします。</p>
<p>指導課課長補佐</p>	<p>○ 1点目は、読み取った情報をもとに英語での実践的なやりとりができるような工夫がなされている点である。 2点目であるが、英語を使用する場面をイメージし、会話につなげられるようになっている、そういった点である。 3点目については、テイクアクションにもあるように、生徒が学んだことを活用し、自ら表現できるようになっている点を挙げさせていただきたいと思う。</p>
<p>教育長 指導課指導主査</p>	<p>○ 次に、道徳について説明をお願いします。 ○ 道徳について各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。「道徳の授業はこんな時間に」では、司会カードを使ったり、心情円を使ったりするなど、道徳科の学習について具体的なイメージをもって1年間取り組むことで、道徳的価値の理解につながるようになっていくことが挙げられた。 次に、教育出版である。各教材の題名の下に教材を通してどのようなことを考えていくのか意識付ける問いが導入として設定され、生徒は見通しをもって学習に取り組むことで道徳的価値の理解につながるようになっていくことが挙げられた。 次に、光村図書である。「見方を変えて」では、中心となる発問と視点を変えた問いが設定されるとともに、「広げよう」では、人間関係づくりや国際理解などの教材と関連付いた多様な内容が取り上げられ、生徒が多面的、多角的な見方や考え方ができるように工夫されていることが挙げられた。 次に、日本文教出版である。教材の導入部分に学習する道徳的価値のキーワードが示されたり、登場人物の挿絵が示されたりしており、生徒の道徳的価値の理解につながるようになっていくことが挙げられた。 次に、学研教育みらいである。ユニットや教材の導入部に入れられたフレーズにより、生徒がその教材に興味をもち、見通しをもって学習に取り組むことで道徳的価値について理解を深めることができるようになっていくことが挙げられた。 次に、廣済堂あかつきである。魅力あふれる人物の生き方から学ぶ教材が充実していたり、問題解決的な学習や体験的な学習を促す教材が位置付けられたりしており、生徒は教材を基にねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるようになっていくことが挙げられた。</p>

<p>教育長 全委員 教育長 石井委員</p>	<p>最後に、日本教科書である。ものの見方や考え方を広げる教材や、障害者差別解消法に関する教材が取り上げられており、学習活動を通して自ら考えたり、多面的、多角的な見方や考え方ができたりするように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>以上である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何か確認しておきたいことや、質問はないか。 ○ 〈なし〉 ○ 道徳は2年前に採択したばかりであるが、石井委員から願います。 ○ 東京書籍を挙げさせていただきたいと思う。まず、道徳のその科目の特徴でもあると思うが、多角的、多面的に捉える必要があるとか、やはり押し付けがましくなるとはいけないという部分において、しなやかさというものが非常に重要だと思うが、その点において、教科書で使っているフォントとかイラストとか表紙とかというところが非常にしなやかで、入っていきやすいという部分について挙げさせていただきたいと思う。 <p>次に、話し合いの手引きというものが示されていて、進め方がわかりやすくいいと思う。そういう仕組みで話し合いを進めていくことを、しっかり枠組みを知っておくということが、実社会に出ても役に立つのではないかなと思う。</p> <p>もう一点目、心情円というものがついていて、それがかなり特徴的だと思う。それを使ったら簡単に他の人がどのように思っているかということが、図としてわかるようになると思うが、かなりおもしろい取組になるのではないかなとも思うし、自分と他者がどう違うのかということを考えるすごくいい機会になるのではないかなと思って推薦させていただいた。</p>
<p>河内委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私は日本文教出版がいいと思った。道徳の最初の学習場面に非常に魅力ある人物とか、3年生はライオンであるが、そういうところから道徳の学習をスタートさせたり、それから道徳科で学ぶことや学び方も掲載されたりしている。それで、その学習の進め方で、その学習活動が示されたり、プラットフォームでより深く考える資料が掲載されたりして、道徳的価値をしっかりと理解することができるように工夫されているかなと思う。特にいじめとか情報モラル、それから国際理解とかの、その大切な持続可能な社会などの、そこでは非常に心を捉える教材文が使われているということや、自分にプラスワンというところで、実践へつないでいく、そういうものも工夫されているかなと思った。
<p>片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私は廣済堂あかつきの教科書を推薦したいと思う。理由は、多感な中学生としての3年間の中で、テキストの冒頭に道徳は自身の心を見つめ、考え、将来に向けて伸ばしていく時間ですということが掲げられている。テキストのタイトルの1年生から順に、自分を見つめる、考える、伸ばすというように、テキストにもその自分を見つめた結果、3年間でどんな育ちを目指しているのかというようなイメージが明確になっていて、その教科書と同じようにしっかりと自分を見つめて考えながら、そして岡山を目指す自立に向かって成長する子どもの一歩を踏み出してもらったらうれしいなというような、親としてもこの3年間を大事に自分と向き合って成長してほしいなと思う視点から、廣済堂あかつきがいいなと思った。 <p>学びの設問等も、そんなに考え方を狭めないというか、広目にとってあったので、正解を見付けたり、多数決でやったりとか、そういうことではなくて、一人一人のいろいろな考えをすくい取ってもらえるのかなという感じがした。</p> <p>道徳ノートもあるので、授業も割と同じように進めていける。以上の点から廣済堂あかつきを推薦したいと思った。</p>
<p>妹尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私も廣済堂あかつきである。今、片山委員がおっしゃった事柄と大分重なるところがあるが、道徳というのは、やはり中学生にとっては、机の上の勉強だと、あまり自分に関係ないというような感じであるが、一歩社会に出たら、本当に道徳的価値とは生き方そのものである。自分の行動、次の一歩をどうするかというのは、全て価値判断で決めていかないといけないわけで、そこに考え

<p>教育長</p>	<p>方だとか、悩みだとか、そういったことを学べる教材という意味で、非常に読み物が充実している。教える先生の力量にももちろん依拠してくることだとは思いますが、膨らみのあるテーマで、そもそも正解があるのかなのか、そもそもこの問題設定自体が正しいのか、そういったことが悩める内容になっているのかなと思う。その一方で、絶対的な価値ってあるよね、命だとか人格だとか、そういったことについても割とこう迫ってくるものが個人的には教材にあったので、廣濟堂あかつきがいいかなと思った。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 廣濟堂あかつきと東京書籍と日本文教出版、三つに分かれている。もう少し付け加えてとかあればお願いしたいが、石井委員から何か、東京書籍のここを推したいというのは。</p> <p>○ 廣濟堂あかつきのよさというのでも改めて皆さんから教えていただいた。東京書籍は、ワークのところをすごく重視しているのかなと思っていて、心情円を使うというのもそのとおりだと思う。みんなで話し合うときのフレームワークをきっちり出すということもそうだと思う。やはり、教室の中で実際にみんな話しかけるような内容を充実させるような仕掛けがしっかりできているのではないかなと思ったが、他のところのよさも、なるほどと思って聞かせていただいた。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ 私も検討する中で、廣濟堂あかつきがいいかなと思った。それから、もう一つ、光村図書もいいかなと思って、この3社で悩んだ結果であるが、本当に廣濟堂あかつきも心が響くような内容のものが取り上げられていて、深く考えることができるのかなと思った。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 今、現在使用しているものが東京書籍で、まだ年数が経っていないので、評価するのは非常に難しいところもあると思う。廣濟堂あかつきについて、お二人から非常に評価をしてくださっている。採決をしてもよろしいか。</p> <p>それでは、廣濟堂あかつきと東京書籍と日本文教出版の三つで手を挙げていただきたい。</p> <p>廣濟堂あかつきがいいと言われる方。 東京書籍がいいと言われる方。 それから、日本文教出版がいいと言われる方。 では、廣濟堂あかつきが多いので、道徳は廣濟堂あかつきで決定したいと思う。よろしいか。</p>
<p>全委員 教育長 指導課課長補佐</p>	<p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 事務局から採択理由についてのまとめをお願いします。</p> <p>○ 1点目は、自分を見つめるということが大切にされているという点である。 2点目は、いろいろな人の考えにより自分の考えを広げられるような話し合いが成立するような工夫、考えを広げられる問いが設定されている点などを2点目にさせていただこうと思う。 最後であるが、読み物教材が充実しているという3点でお願いしたいと思う。</p>
<p>教育長 指導課課長補佐</p>	<p>○ 以上で、中学校の教科用図書についての採択は終わる。 次に、特別支援学級で使用する図書についてお願いします。</p> <p>○ 特別支援学級で使用する教科用図書については、より児童生徒の実態に合った教科用図書を使用するという点で、各校で選定委員会を組織し採択いただきたい教科用図書を選定している。事務局で必要な指導、助言を加えた上で、令和3年度使用特別支援学級教科用図書選定資料を取りまとめている。一覧表もあるので、あわせてご覧いただきたい。</p>
<p>全委員</p>	<p>本日は、その資料にある絵本などの一般図書119冊と文部科学省の著作本16冊の計135冊全ての採択をお願いしたいと考えている。本日、机の上に置かせていただいているのは、今年度新しく採択していただきたい図書である。その他については、教育長の後ろの机に置いているので、必要に応じてご覧いただきたい。</p> <p>以上である。質問はあるか。</p> <p>○ 〈なし〉</p>

教育長	○ 一般図書が119冊と文科省の著作本が16冊である。計135冊。これを全て採択するということであるが、何か見たほうがよければ見ていただいて、意見があればお願いします。
河内委員	○ 特別支援学級の子どもたちというのは、本当に実態が一人一人まちまちなので、その子に合った教科書を厳選されているということからすると、全ていいのではないかと思う。
石井委員	○ 同じ意見であるが、毎年、違った形が求められると思うので、今の状況だけではなくて、長期的に見た中でバランスよく選ばれているということであれば、それがふさわしいと思う。
教育長	○ それでは、案のとおり採択するということでよろしいか。
全委員	○ 〈承認〉
教育長	○ では、事務局から続けて説明をお願いします。
指導課課長補佐	○ 岡山後楽館高等学校用教科用図書について採択をお願いします。岡山後楽館高等学校は単位制の総合学科であり、カリキュラムをそれぞれ組んでいるので、多岐にわたり大変分量が多くなっている。本日は、今年度新しく採択をお願いしたいものがあるので、その教科用図書と他に一部置かせていただいている。それ以外のものについては、教育長の後ろの机の上に用意している。岡山市立岡山後楽館高等学校においても、学校で組織された選定委員会において選定された教科用図書の一覧と、別に準備している選定理由書をもとに採択をお願いしたいと考えている。 なお、選定理由書に第1部と書いてあるところがあるが、現在、使用している平成21年度告示の学習指導要領に沿った教科用図書ということである。
教育長	○ 何か質問等があるか。
全委員	○ 〈なし〉
指導課課長補佐	○ それでは、教科書を取りかえさせていただく。
教育長	○ 本当にカラフルになっている。文字ばかりだったような記憶があるが。
妹尾委員	○ そう思う。
石井委員	○ 確かにそうである。
教育長	○ 岡山後楽館高校の教科用図書について、何か意見があるか。校内でしっかり吟味しているということであるが、何か質問等があればお願いします。
全委員	○ 〈なし〉
教育長	○ それでは、案のとおり採択ということにしたいと思う。よろしいか。
全委員	○ 〈承認〉
教育長	○ では、事務局から続けて説明をお願いします。
指導課課長補佐	○ 今後、採択図書をまとめ、県教育委員会へ報告する。なお、採択に係る資料、採択教科書、採択理由等については、教科書の採択に関する信頼を確保する観点から、法で定められた採択の時期である8月31日までは公表を控えていただき、それ以降にホームページでの公表をしたいと考えている。 以上である。
教育長	○ 今の説明で何か意見等あるか。
全委員	○ 〈なし〉
教育長	○ それでは、以上で教科用図書採択について終了する。 本日予定していた議案の審議は全て終了した。以上をもって令和2年7月教育委員会定例会を閉会する。

傍聴の状況		
一	般	12名